

**「生涯活躍のまちアドバイザー」による地域支援  
の活用方策に関する調査研究事業  
実績報告書**

**令和3年3月**

**一般社団法人生涯活躍のまち推進協議会**



## 目次

1. 調査研究の概要 .....	5
(1) 実施背景・目的 .....	5
(2) 手順 .....	6
(3) 検討会の実施 .....	7
2. 業務内容 .....	9
2. 1 地域課題とアドバイザーの効果的なマッチングの在り方 .....	9
2. 1. 1 試行的なマッチング .....	9
(1) 現地調査 .....	
(ア) 流れ .....	9
(イ) 詳細 .....	10
(ウ) 結果 .....	13
(2) ヒアリング .....	14
(ア) ヒアリング調査の概要 .....	14
(イ) ヒアリング結果 .....	14
(ウ) 現地調査及びヒアリング結果の整理 .....	16
(3) まとめ .....	17
2. 1. 2 試行的な情報発信 .....	19
(1) ヒアリング .....	19
(ア) ヒアリングの調査の概要 .....	19
(イ) ヒアリング結果 .....	19
(2) 試行的な情報発信 .....	20
(ア) 概要 .....	20
(イ) 手段 .....	21
(ウ) 結果 .....	23
(3) まとめ .....	24
2. 2 アドバイザーの養成 .....	27
2. 2. 1 アドバイザー研修の試行的な実施 .....	27
(1) 研修の実施 .....	27
(2) 研修の結果 .....	28
(3) まとめ .....	29
2. 2. 2 研修テキストの作成 .....	30
(1) アンケート調査の概要 .....	30
(2) アンケート結果 .....	30
(3) まとめ .....	31

(参考)	1. 現地調査及び試行的マッチングの実施概要 .....	32
	2. 研修実施概要 .....	90

## 1. 調査研究の概要

### (1) 実施背景・目的

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和元年12月20日閣議決定）においては、「生涯活躍のまち」に関心を持つ地方公共団体職員や不動産、金融、商業、医療福祉などに関連する専門知識を有する者を対象とした広域アドバイザー養成研修（略）を行う」とされた。

令和元年度から養成を開始した「生涯活躍のまちアドバイザー（以下、アドバイザーという。）」は令和元年度末で94人に達し、アドバイザー数も充実してきている。

こうした状況を踏まえて、本研究調査では、地方公共団体の要請に応じ、アドバイザーを効果的にマッチングさせる手法などを検討することで、地方公共団体における「生涯活躍のまち」の取組を推し進めることとする。

## (2) 手順

本調査研究では主に「①地域課題とアドバイザーの効果的なマッチングの在り方」及び「②アドバイザーの養成」について検討を行った。

①については、各地域で行われている「生涯活躍のまち」の取組とともに、地域課題の把握を行い、その課題解決に資するアドバイザーを試行的に派遣すること等を通して、地域課題とアドバイザーの効果的なマッチングの在り方について検討を行った。

②については、アドバイザーを養成するための研修の試行的な実施を通して、研修テキストを作成した。

具体的な検討項目は以下のとおり。

### ①地域課題とアドバイザーの効果的なマッチングの在り方

#### ●試行的なマッチング

##### ①現地調査

「生涯活躍のまち」の取組状況、地域課題の把握のため、地方公共団体を3か所選定し、現地調査を実施。

##### ②ヒアリング

地方公共団体とアドバイザーの効果的なマッチングについて、手段や体制を検討するためのヒアリングを実施。

#### ●試行的な情報発信

アドバイザー同士の連携強化を図るための仕組みの検討として、アドバイザーにニーズをヒアリングし、オンラインによる意見交換会、ホームページやSNSなどを活用し、アドバイザーの横連携に資する情報発信を試行的に実施。

### ②アドバイザーの養成

#### ●研修の試行的な実施

アドバイザーを養成する研修を試行的に3回実施。

#### ●研修テキストの作成

受講者に対するアンケートなどを踏まえて、研修テキストを作成。

### (3) 検討会の実施

有識者による検討会を4回実施した。

氏名	所属
後藤 純	東海大学工学部建築学科 特任准教授
西上 ありさ	studio-L 設立メンバー
仁科 力	株式会社市浦ハウジング&プランニング 住宅事業推進室 室長
堀田 直揮	公益社団法人青年海外協力協会 事務局長
松田 智生	株式会社三菱総合研究所 プラチナ社会センター主席研究員

(五十音順、敬称略)

#### ●第1回

日時：令和2年6月17日（水）10：00～12：00

形式：ZoomによるWEB会議

議事次第：

- (1) 年間の業務の流れ
- (2) 地域課題の把握のための現地調査及びヒアリングの候補先について
- (3) 今後のスケジュール

#### ●第2回

日時：令和2年10月8日（木）14:00～16:00

形式：ZoomによるWEB会議

議事次第：

- (1) 第1回アドバイザー研修（名古屋）の振り返り
- (2) 第2回アドバイザー研修（福岡）に向けて
- (3) 生涯活躍のまちアドバイザー像の検討
- (4) 第2回現地調査について
- (5) 今後のスケジュール

●第3回

日時：令和2年12月25日（金）14:00～16:00

形式：ZoomによるWEB会議

議事次第：

- (1) 第2回アドバイザー研修（福岡）の振り返り
- (2) 第3回アドバイザー研修の開催について
  - ①研修テキストのコンテンツについて
  - ②開催方法
- (3) 第3回現地調査について
- (4) 今後のスケジュール

●第4回

日時：令和3年3月8日（月）14:00～15:30

形式：ZoomによるWEB会議

議事次第：

- (1) 研修プログラム及びテキスト
  - ① 第3回研修の振り返り
  - ② 研修プログラム
  - ③ 研修テキスト
- (2) 地域課題とアドバイザーの効果的なマッチング
  - ① 現地調査の結果
  - ② 試行的なマッチング
  - ③ 効果的なマッチングに向けて
  - ④ アドバイザーの横連携
  - ⑤ マッチングのスキーム
- (3) 報告書構成案

## 2. 業務内容

### 2. 1 地域課題とアドバイザーの効果的なマッチングの在り方

地域課題解決に資するアドバイザーの試行的なマッチング及びアドバイザーの連携の強化に資する試行的な情報発信を行い、その結果に基づき、地域課題とアドバイザーの効果的なマッチングのあり方について検討を行った。

#### 2. 1. 1 試行的なマッチング

##### (1) 現地調査

「生涯活躍のまち」に取り組む3つの地方公共団体をモデルとして、現地調査を行った。本項では、試行的にアドバイザーを現地に派遣し、地方公共団体などにアドバイスを行った、取組のプロセスなどを明らかにする。

現地調査を行ったモデル地方公共団体（視察日）

以下、「生涯活躍のまち」の構想等を策定しており、取組を進めている3地方公共団体をモデル地方公共団体として設定した。

- ①高知県高知市（令和2年8月24日～26日）
- ②長野県駒ヶ根市（令和2年10月12日～14日）
- ③静岡県南伊豆町（令和3年1月27日～29日 ※オンライン開催）

##### (ア) 流れ：

###### ①地方公共団体への事前ヒアリングの実施：

事務局よりモデル地方公共団体に対して、事前のヒアリングを行い、地方公共団体が実施する「生涯活躍のまち」の取組や、課題内容について整理する。

###### ②アドバイザーの選定：

事務局が事前ヒアリング内容を元に、課題解決に適したアドバイザーを選定する。

###### ③マッチングの実施：

アドバイザーをモデル地方公共団体とマッチングさせ、「生涯活躍のまち」の取組に関連する施設への視察や関係者へのヒアリングを行い、事前ヒアリングの内容と照らし合わせ、改めて課題の整理を行う。

###### ④アドバイスの実施：

アドバイザーより地方公共団体などに対して、課題解決のためのアドバイスを行う。

## (イ) 詳細

### ①高知県高知市

#### 事前ヒアリングの実施

地方公共団体が提示する主な課題：移住促進事業を中心に事業を進めているが、目標としている中高年齢者の移住数が伸び悩んでいる。また、地方公共団体と取組を進める事業者の間で事業の最終地点などの目線合わせも十分でない。

#### アドバイザーの選定

選定理由：移住政策が進まない理由として、中高年齢者に向けた住まいが提供できていない(高齢者に貸したくない、空き家の利活用が進まない)としたヒアリング内容を踏まえ不動産コンサルティング会社のアドバイザーを選定。

#### マッチングの実施

アドバイザーが明らかにした課題：

- ・事業主体の移住希望者のニーズの掘り起こしができていない。
- ・移住者受入れ先を高知市が想定する中心市街地に設定していない。
- ・商店街は住民との関係強化を望んでいること、経済団体は独自で東京商工会との間で「関係人口」拡大の試みに取り組んでいることが判明。

#### アドバイスの実施

- ・アクティブシニアの移住促進のために、高知市にどんな人に来てもらいたいのか、求める人物像を整理すること。
- ・首都圏の企業をリタイアした方を受け入れている地元経済団体と連携すること。
- ・商店街における地域住民、移住者との交流の場としての機能を拡大すること。
- ・高知市に対しては健康や地域振興等、他部署との横連携などについての提案。



## ②長野県駒ヶ根市

### 事前ヒアリングの実施

地方公共団体が提示する主な課題:1万500世帯に配布されている商店街カードデータが有効に活用されていないため、ITの技術を活用し、別途展開している健康ポイントと連動させる仕組みやアイデアが欲しい。また駒ヶ根版ワーケーションの取組の推進を図りたいが、どのように都内企業の理解を得ればよいか。

### アドバイザーの選定

選定理由: 駒ヶ根市の課題は健康ポイントの活用や関係人口づくりの取組における専門領域のアドバイスを求めるものであったため、商店街カードの有効活用にはエレクトロニクスメーカー・総合ITベンダーのアドバイザー、関係人口づくりについては旅行社のアドバイザーを選定。

### マッチングの実施

アドバイザーが明らかにした課題:

- ・企業が取り組もうと思うようなプログラムをつくるためには都市部の関係者のニーズを把握することが必要。
- ・ワーケーション以外の取組も検討すべき。
- ・商店街カードを駒ヶ根市が展開している健康ポイントと連動させる可能性を広げるためのアイデアや技術が求められている。

### アドバイスの実施

- ・「関係人口」拡大のためにはワーケーションよりも地元の多世代の賑わいづくりが必要。
- ・JICA訓練所、JOCAの特性を生かした国際協力やSDGsをメインとした教育旅行の有効性
- ・商店街カードの有効性のためには、市民が楽しみながら健康促進でき、さらにポイント加算で特典を受けいれるサービスの拡充を提唱。



### ③静岡県南伊豆町

#### 事前ヒアリングの実施

地方公共団体が提示する主な課題：「生涯活躍のまち」構想の基本であったハード整備の事業がとん挫し、新たな政策の方向性が明確に打ち出せていない。また、事業全体に対して庁内連携が十分でなく統一した方向性が見出せない。

#### アドバイザーの選定

選定理由： 地域密着型のスポーツクラブを全国に展開する企業の社員をアドバイザーに選定。住民が楽しみながら健康づくりを行うためのコンテンツといった視点から選定。

#### マッチングの実施

アドバイザーが明らかにした課題：

- ・現在のまちの取組は町外の人向け、事業者周辺の一定の人たちが関わる事業の印象。
- ・「生涯活躍のまち」の求心力が薄れている現在、南伊豆町庁内ならびに町民を「生涯活躍のまち」事業に巻き込む必要がある。

#### アドバイスの実施

- ・当初、人口減の抑制を課題とし移住促進の方策を想定したが、実際には移住促進に取り組んでいる地域の方々の活動により、移住者はコンスタントに増えている。
- ・供給できる住まいの数も限られていることから、現状を越える移住者の受入れは難しい。
- ・既存の住民に向けた取組の強化が重要。



## (ウ) 結果

3つのモデル地方公共団体への試行的なマッチングを通して、地方公共団体などに対し、アドバイザーによるアドバイスを行うまでのフローを以下のように整理した。

<p><b>【事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地方公共団体の地域課題の整理</li><li>1. ヒアリングによる課題整理</li><li>2. 養成したアドバイザーの中から、課題解決に適した専門性を持つアドバイザーを選定。</li></ul> <p>●事前の課題整理に当たっての作業</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地方公共団体における地域課題と「生涯活躍のまち」の関係性や取組の洗い出し</li><li>・取組に関わる関係者の洗い出し</li></ul> <p>●アドバイザー選定に当たっての考え方</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地方公共団体はどのような問題意識を持っているのか、どのような要望があるのか。</li><li>・それを踏まえて、アドバイザーに求められる資質や能力はどのようなものか</li><li>・課題に適した人材はどのような人材なのか</li></ul>	<p><b>【マッチング】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事前の課題の検証</li><li>1. 地方公共団体の関係部局、関係者へのヒアリングや取組・施設の視察</li><li>2. 1を踏まえた課題の再整理</li></ul> <p>・事前準備で得た情報と、現地の様子に違いはあるか</p> <p>・事前のヒアリング担当者以外の関係者はいるか。また関係者が複数いる場合、それぞれの関係者が課題をどのように捉えているか</p>	<p><b>【アドバイス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・課題の再整理を踏まえたアドバイス</li><li>専門的な観点から地域課題への助言</li></ul> <p>・地方公共団体や関係者が考えている課題以外に新たな課題はないか</p> <p>・地方公共団体や関係者が考えているアドバイスの水準と実際のアドバイス内容が適切か</p>
--	---	---

### 【事前準備】

国や地方公共団体のホームページや各種文献調査などに基づき、モデル地方公共団体における取組について整理を行った後、モデル地方公共団体に対して、ヒアリングを行い、課題の整理を行った。

また、事前の課題整理に基づき、地方公共団体の求めるアドバイスの水準なども考慮しつつ、課題解決に適したアドバイザーを選定した。

特に、地方公共団体における課題や要望等に適したアドバイザーを選定するためにも、事前に課題を事前に洗い出し、整理することは重要である。

### 【マッチング】

地方公共団体と調整を行い、「生涯活躍のまち」に関連する施設や取組の視察、関係者へのヒアリングを行った。

また、ヒアリングなどに基づき、事前に整理した課題について検証を行った。

特に検証に当たっては、現地の施設や取組を直接観察することや複数の関係者に対するインタビューなどを通して、生涯活躍のまちの取組状況や意識確認から、事前に洗い出した課題に対して、地域の弱みや強みなどを改めてアドバイザーが確認し、地域課題に対してより客観的な分析とした。

### 【アドバイス】

地方公共団体からの要望やアドバイスの水準のほか、アドバイザーの専門性に基づく、地方公共団体や関係者では気づいていない課題などを意識して、アドバイス

を行った。

「生涯活躍のまち」は様々な分野に関わるものであるため、地方公共団体の庁内にとどまらず、町内会や経済団体、事業者など様々な関係者が関わっている。

今回の現地調査において、各関係者によって意見や課題の捉え方が違うこともあったことから、アドバイザーは各関係者の課題の捉え方なども参考に適切なアドバイスを行うことが重要である。

## (2) ヒアリング

### (ア) ヒアリング調査の概要

アドバイザーと地方公共団体との効果的なマッチングに向けた示唆を得ることを目的として、試行的なマッチングに参加したモデル地方公共団体とアドバイザーなどに対して改めてヒアリングを行った。

ヒアリング対象：

- ・アドバイザーの試行的なマッチング事業に参加した地方公共団体
- ・アドバイザーの試行的なマッチング事業に参加したアドバイザー4名
- ・第3回アドバイザー研修に講師として参加した地方公共団体（北海道上士幌町・群馬県玉村町・埼玉県秩父市・鳥取県南部町）

ヒアリング項目：

- ①効果的なマッチングの目的
- ②効果的なマッチングを図るための内容
- ③効果的なマッチングを図るための手段

### (イ) ヒアリング結果

#### ①効果的なマッチングの目的

地方公共団体の回答	<ul style="list-style-type: none"><li>・アドバイスの前に地方公共団体への理解をより深めてもらうため。</li><li>・地域の課題に適したアドバイザーを選び、課題解決につなげるため。</li><li>・アドバイスに必要な費用やその他の条件を事前にすり合わせ、出会いがデメリットにならないようにするため。</li></ul>
アドバイザーの回答	<ul style="list-style-type: none"><li>・アドバイスを実施する前、地方公共団体が課題と思う内容や、「生涯活躍のまち」の取組への関係者を把握するため。</li><li>・事前の情報収集や、現地調査を踏まえて、地方公共団体の課題を明らかにし、適切なアドバイスを行うため。</li></ul>

	・アドバイザーとしての活動ができる範囲や地方公共団体への要望など、事前にすり合わせを行うため。
--	---

## ②効果的なマッチングを図るための内容

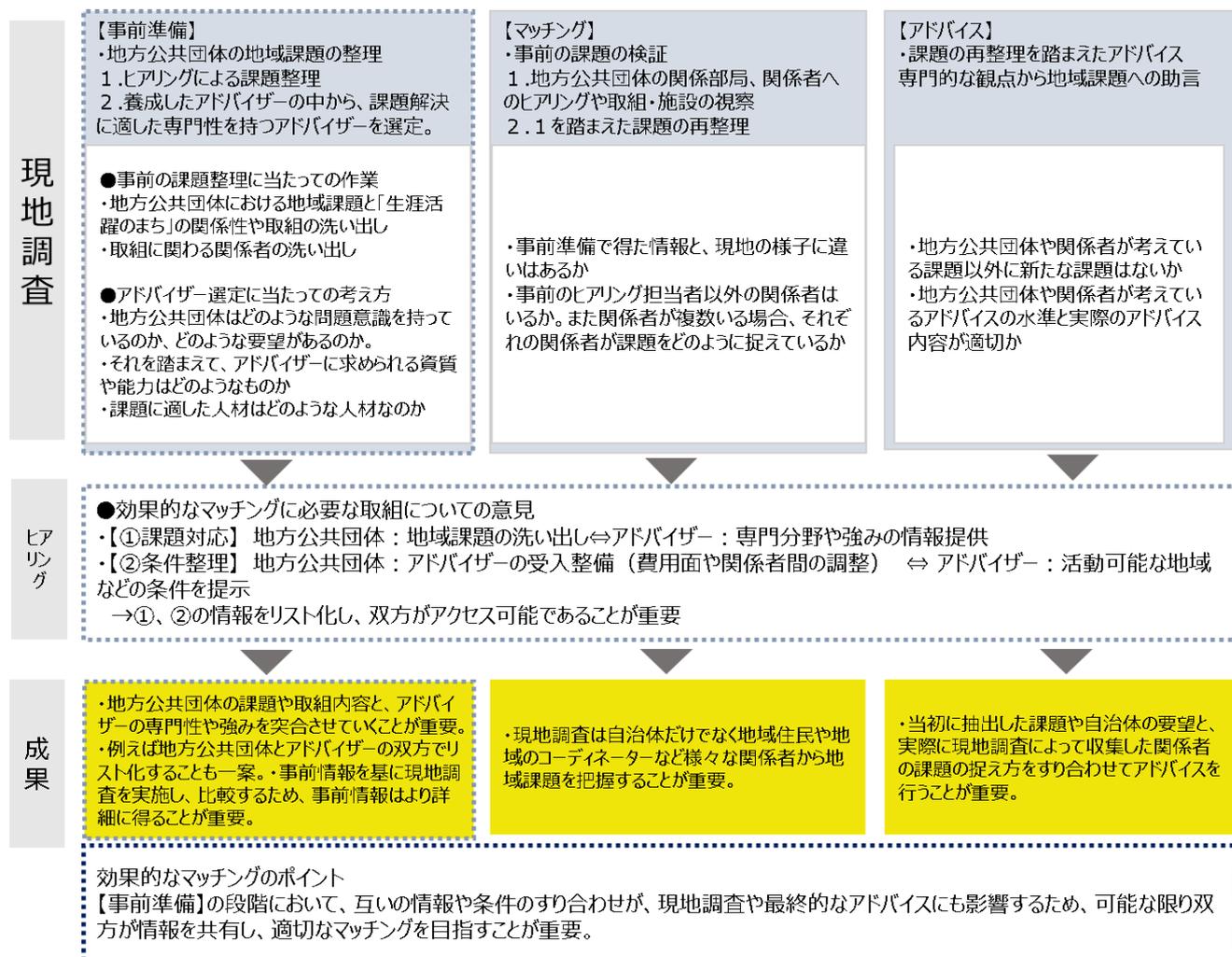
地方公共団体の回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生涯活躍のまち」が多岐にわたるため、いろいろな得意分野や専門性を持つアドバイザーを比較できる情報があるとよい。</li> <li>・アドバイザーの強みなどを明らかにした情報。</li> <li>・アドバイザーのできること（あるいはできないこと）を示す情報。</li> <li>・課題の整理やアドバイザーの選定が難しい場合、仲介や整理をサポートする存在があるとよい。</li> </ul>
アドバイザーの回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方公共団体の取組内容や課題を明らかにした情報。</li> <li>・アドバイスとして欲しい内容を明らかにしていること。</li> <li>・地方公共団体側が欲している人材を明らかにしていること。</li> <li>・アドバイスを行うにあたっての基本的な条件の提示（期間や費用などを含め）。</li> <li>・地域の要望や課題がオープンな場合、地方公共団体がアドバイザーを選ぶのではなく、アドバイザー側から地域に働きかけることが可能。</li> <li>・地方公共団体との調整を行うコーディネーター役などがいるとよい。</li> </ul>

## ③効果的なマッチングを図るための手段

地方公共団体側の回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生涯活躍のまち」に関する具体的な取組内容や総合戦略などの骨子をアドバイザーに提供。</li> <li>・どのようなことをアドバイスしてほしいかを提示。</li> <li>・庁内や関係者間で課題を抽出しアドバイザーに提示。</li> <li>・各地方公共団体の取組や課題内容を網羅した情報にアクセス可能であること。</li> <li>・庁内や現地関係者におけるアドバイザーの受入を調整。</li> </ul>
アドバイザーの回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各アドバイザーの情報（アドバイスに活かせる強みや専門分野）を網羅した情報の提示。</li> <li>・地方公共団体に求める要望やアドバイスを実施するための条件などを提示。</li> </ul>

## (ウ) 現地調査及びヒアリング結果の整理

アドバイザーによるアドバイスを行うまでのフローに照らして、ヒアリングで得た情報を以下のように整理した。



前述のヒアリングの回答において、地方公共団体がアドバイザーに対してどのようなアドバイスを望むかという要望や、地域課題などを事前に可能な限り明らかにすることが求められていることから、アドバイザーが地方公共団体の期待水準に沿うアドバイスを行うことを見据えた効果的なマッチングを図るためには、特に、双方のマッチングより事前に地域課題を洗い出し、整理することが重要であるとともに、アドバイザーに対するアドバイスの期待水準についても明示することが必要であると考えられる。

そのための手段として、地方公共団体、アドバイザーの双方が地域課題や強みを整理した情報や、双方がマッチングするための条件（アドバイスに係る必要経費など）・要望を整理し、リスト化したうえで提示することが考えられる。

地域課題などが明確であれば、アドバイザー側から地方公共団体に働きかけを行うことも考えられる一方で、双方の要望などを調整するためのコーディネーターの存在を望む回答もあった。

### (3) まとめ

地域課題は地方公共団体における「生涯活躍のまち」の事業の進捗状況や担当部局・関係者によって捉え方が異なり、それに伴いアドバイザーに求めるアドバイスの水準も異なってくる。例えば、アドバイスの内容としても、事業へのビジョンの提示といった抽象的な課題に対する解決の道筋の提示や、政策立案といった自らの専門性を活かした企画支援などの具体的な解決案まで、様々な幅広い方向性が考えられるため、アドバイザーと地方公共団体の効果的なマッチングを検討する上では「地域課題の捉え方」及び「アドバイスの期待水準」といった観点を事前に双方で調整を行うことが重要であると考えられる。

そこで、試行的なマッチング及びヒアリングの内容を踏まえて、地域課題（地方公共団体）とアドバイザーの効果的なマッチングのフローについて下記のように3つのケースに分けて整理した。

#### 地方公共団体とアドバイザーのマッチングに向けた3つのフロー

- ①地方公共団体が主体的にアドバイザーに働きかける場合
- ②アドバイザーが主体的に地方公共団体に働きかける場合
- ③コーディネーターが両者のマッチングを仲介する場合

##### ①：地方公共団体が主体的に働きかける場合

まず、地方公共団体が「生涯活躍のまち」を推進する上での地域課題を洗い出し、課題の解決に向けて、どのようなアドバイスを受けたいのか明確にする。

この際、庁内だけではなく事業に関係するカウンタパート等を含め、できる限り課題を明確化した上で、関係者で共有することが重要である。

次に、課題解決に適したアドバイザーに対して、アドバイスの依頼を行うこととなる。この際、適切なマッチングのため、養成したアドバイザーの氏名や所属だけではなく、専門分野や活動可能なエリア等の情報に基づき、地方公共団体がアドバイザーに対して、依頼を行うことが想定される。また、効果的なマッチングのために、費用面をはじめ、課題やその背景等についても整理を行い、アドバイザーに対して提示することが必要であると考えられる。

##### ②：アドバイザーが主体的に地方公共団体に働きかける場合

アドバイザーは、自身の強みや専門分野と照らし合わせて、地方公共団体の「生涯活躍のまち」構想や取組事例、地方版総合戦略の文献調査などから地域課題の洗い出しを行う。

次に、地方公共団体に対して、マッチングのための働きかけを行うこととなる。その際、適切なマッチングのため、事前に洗い出した課題に照らして、地方公共団体における課題やその背景等について伺い、検証を行うとともに、関与する期間や期待するアドバイスの内容といったアドバイスへの期待水準の確認を行うほか、費用面についても地方公共団体と調整を行うことが想定される。

③：コーディネーターが両者のマッチングを仲介する場合

コーディネーターが、アドバイスを求める地方公共団体とアドバイザー候補が集まる意見交換の場を設定し、地方公共団体の事業への取組状況やアドバイザーの強みや地域への理解度を踏まえて課題解決の可能性を整理し、地方公共団体とアドバイザーの双方のマッチングを調整する。また、費用面をはじめとする地方公共団体がアドバイザーに提示できる条件や、アドバイザーの活動可能な地域など、双方の条件や要望を踏まえて調整を行うことも想定される。

①～③のいずれのパターンにおいても、地方公共団体及びアドバイザーの双方において「地域課題」や「アドバイスの期待水準」に照らした情報をまとめ、双方が閲覧できる環境におくことで、地方公共団体とアドバイザーの効果的なマッチングに資するものとなることが考えられる。

## 2. 1. 2 試行的な情報発信

### (1) ヒアリング

アドバイザーと地方公共団体との効果的なマッチングに向けた示唆を得ることを目的として、アドバイザー同士の連携強化のための情報やその発信手法等について、ヒアリング及び試行的な情報発信を行った。

#### (ア) ヒアリング調査の概要

ヒアリング対象：アドバイザー

ヒアリング項目：

- ①横連携の目的
- ②横連携の強化を図るための内容
- ③横連携の強化を図るための手段

#### (イ) ヒアリング結果

##### ①横連携の目的

概ねスキルアップやモチベーションの向上等

<ul style="list-style-type: none"><li>・アドバイザーには多様な業種や年齢の人がいることから、自分とは 立場の違う人の身になって考え、意見を聞くことで、違った視点に触れ、結果的に知見が深まることや想像力を養うといった能力の向上に繋がる。</li><li>・アドバイザーは全国に点在していることから、互いが知り合えるような取組を行うことで、アドバイザーの一体感の醸成、モチベーションの向上に繋がるのが考えられる。また、一体感の高まりによって、本事業の持続性も期待できるのではないか。</li><li>・分野横断的な「生涯活躍のまち」事業においては異業種のアドバイザーがチームで地域にアドバイスを行うことも考えられることから、地方公共団体に対して、効果的なアドバイスを行うために有効。</li><li>・アドバイザー同士で地方公共団体等の情報を交換することによって、情報収集源にもなり得るし、知識を共有することで、より効果的なアドバイスに繋げることができる。</li></ul>

##### ②横連携の強化を図るための内容

・アドバイザー同士の氏名や専門分野、活動領域などの情報

- ・「生涯活躍のまち」に推進意向のある自治体や民間企業の取組内容に関する情報
- ・「生涯活躍のまち」の官民連携の取組
- ・「生涯活躍のまち」に限らない地方創生全般の取組
- ・交付金や補助金等の活用事例やその手法
- ・ファシリテーション、プレゼンテーションの手法
- ・アドバイザーの現地に入った様子や事例等
- ・失敗した事例の原因や問題点、苦労した点
- ・コロナ渦におけるコミュニティづくりの取組

### ③横連携の強化を図るための手段

- ・定期的に「生涯活躍のまち」を含めた地方創生に関するニュースや知識等を提供するメールやホームページ
- ・eラーニングのような動画コンテンツ
- ・アドバイザーは全国に点在していることから、オンライン情報交換会
- ・北海道、東北、首都圏といったブロックごとに直接集合しての情報交換会
- ・地方公共団体の現地のフィールドで研修
- ・コロナ渦におけるコミュニティづくりの取組

## (2) 試行的な情報発信

### (ア) 概要

#### ①内容

「生涯活躍のまち」等に関する知識やファシリテーション等のスキルの向上に資するものと考えられる、以下の内容について幅広く発信することとした。

- ・「生涯活躍のまち」に関連する国の制度等  
(「「生涯活躍のまち」づくりに関するガイドライン」、地方創生推進交付金等)
- ・「生涯活躍のまち」に取り組む自治体の取組
- ・地方創生や新型コロナウイルスの影響等を考慮した民間企業の取組  
(テレワーク、本社移転、働き方改革等)
- ・民間企業の取組(不動産や介護福祉等)
- ・アドバイザー制度
- ・アドバイザー同士の氏名や専門分野、活動領域などの情報 等

(イ) 手段

①の内容について、オンライン・オフラインを問わず、媒体ごとにメリットを整理した上で、新型コロナウイルスの状況も考慮し、以下の手段を用いて、アドバイザーに対して発信を行った。

手段	類型	手段のメリット	実施内容等	更新頻度
ホームページ	オンライン	情報にアクセスすることが容易	・事務局のホームページにおいて、地方創生に関連する国の制度の紹介、「生涯活躍のまち」に関連する自治体や事業者等の取組の紹介等のほか、アドバイザーの登録情報（氏名、所属、得意分野、保有資格、活動範囲）をリスト化し、掲載。 ・アドバイザーリストを見た、アドバイザーから、他のアドバイザーと情報交換したい旨、事務局に連絡があった。	週1回
SNS (フェイスブック)		・SNS自体は昨今の情報発信のための手段として一般的であり、ユーザー数も多い。 ・事務局とアドバイザーの交流はもとより、アドバイザー同士が双方向でコミュニケーションがとれる場にもなりえる。	・フェイスブックを活用し、アドバイザーのコミュニティページにおいて「生涯活躍のまち」に関連する自治体や事業者等の取組の紹介、イベント等を発信した。 ・地方公共団体職員のアドバイザーが「生涯活躍のまち」に関連する取組を紹介し、それに対して民間企業に属する他のアドバイザーがアドバイスをを行うなど、限定的ではあるが、アドバイザー同士の交流がみられた。	週1回
メールマガジン		直接アドバイザーに対して、情報を発信することが可能	・事前に登録して頂いていたアドバイザーに対して、「生涯活躍のまち」に関連する自治体や事業者等の取組を掲載したホームページやSNSへの誘導をメールマガジンで配信。	隔週1回
意見交換会	オンライン オフライン	・直接アドバイザーを集めて、交流を促すことが可能 ・さらにオンラインを活用することで、全国にアドバイザーが点在していても、基本的に場所を問わず、交流が可能。	・オンラインで実施。有識者がメインスピーカーとなって、アドバイザーとしての自身の経験を共有したほか、アドバイザーと自治体との効果的なマッチングについて意見交換を起こった。 ・アドバイザーがいかに自治体にアクセスしていくか、課題をいかに深掘りしていけばいいのか等、有識者を含めたアドバイザー間での意見交換等を通して、アドバイザーは地域に入ってアドバイスをしていく過程について学ぶことができた。	1回 (R2年度3月)
雑誌	オフライン	閲覧性に優れている	・事務局の会報誌をアドバイザー研修の会場で提供。「生涯活躍のまち」に関する国の施策状況、自治体職員や事業者などのインタビュー記事や特集を中心に掲載。	3回 (R2年度 9月・12月・ 3月)

## 【試行的な情報発信の例】

### ●生涯活躍のまちアドバイザー



●生涯活躍のまちアドバイザー  
市民活動や起業の支援、各種事業の事務局業務を行うなど、線の下からのサポートをしています。(末本房子)  
2021年3月15日



●生涯活躍のまちアドバイザー  
館山と東京の二拠点居住を実践しています。(出川貴章)  
2021年3月15日



●生涯活躍のまちアドバイザー  
広い視野で、金融機関の目線から情報の仲介をメインに活動できればいいな、と思っています。(鶴岡親弘)  
2021年3月15日



●生涯活躍のまちアドバイザー  
准認定ファンドレイザー資格を活かして、非営利組織に関するサポートも可能です。(溝口耕一)  
2021年3月15日



松永 崇志さんがリンクをシェアしました。  
2月23日 12:16

鹿児島市の喜入の生涯活躍のまち、事業主体の医療法人夢天会・社会福祉士法人喜入会で地域連携のコーディネーターをしております松永崇志です。

芳地 隆之さまからご連絡いただき、大学院にて生涯活躍のまちについても勉強している院生さんが、地域課題と福祉を勉強するインターンに来られました。  
金沢大学大学院は、地域に長期滞在し、課題解決に取り組み授業を実施しています。  
院生さんは今年は輪島KABULETでのインターンも修了し、単位として認められたようです。  
先日インターンシップ修了の報告会がありましたので、レポートをまとめました。  
今後、このような取り組みの必要度は増していくのではないかと感じました。^\_^

[https://kiire.life/kiire\\_days/1496](https://kiire.life/kiire_days/1496)  
レポートはこちらから、読んでいただけたら幸いです。

地方の仕事・暮らしを体験するインターンを実施して感じたこと | 喜入移住物語 喜入においてよ！鹿児島市喜入移...

あなた、東 邦彦、堀田 直輝、他6人 87人が既読

超いいね! コメントする シェア

公開コメントを入力...

## ホームページ (一般社団法人生涯活躍のまち推進協会)

◆今週のピックアップ  
【アドバイザー交流会・情報交流会】  
「生涯活躍のまち」アドバイザー研修を受講された皆さま向けのオンラインによる交流会&情報交換のお知らせです。  
日時は2月25日(木) 14:00~15:00。  
メインスピーカーは研修において講師、ワークのファシリテーターを務めていただいた東海大学工学部准教授の後藤純先生。当日は先生が携わっておられるまちづくりの現状などを紹介いただきながら、自治体とアドバイザーのマッチングがスムーズに進むための意見交換なども行う予定です。  
アドバイザー同士の近況報告など、ざっくばらんな集まりにしたいと思っています。参加ご希望の方は下記までご連絡ください。事務局から当日のZOOMのURL、ミーティングID、パスワードをお知らせいたします。  
(一社)生涯活躍のまち推進協会事務局  
芳地(ほうち) 隆之  
mail : [taka.2429.hochi@gmail.com](mailto:taka.2429.hochi@gmail.com)  
当協会のHPには後藤先生のインタビューもアップしております。アドバイザーとして活動するに当たってのヒントも満載です。こちらもお読みください。  
<https://is.gd/oUULWdg>

### メールマガジン (アドバイザー向けニュース)



意見交換会 (アドバイザー情報交換会の様子)

## SNS (フェイスブック)



首長に聞いた。  
「生涯活躍のまち」ネクストステージに向けて

南部町で進む住民主体のまちづくり

鳥取県西伯郡南部町町長 陶山清孝さん  
SUYAMA KIYOTAKA  
1968年2月生まれ。鳥取県西伯郡南部町生まれ。鳥取県立西伯高等学校卒業。鳥取県立西伯高等学校教員を経て、2009年10月から現職。

鳥取県の南部町は生涯活躍のまちの先進自治体としてこれまで誇られてきました。人口万人強の小さな町が全国モデルになったのは、地元だけでなく遠隔の人々も巻き込んだ住民主体のまちづくりを進めるからであることが、陶山町長のお話からわかります。地方創生が数々のステージに入った現在、各地町がどのような課題をもって、その解決に向けていくのか。全国の市町村が注目しています。

生涯活躍のまち 12	INDEX
首長に聞いた	
南部町で進む住民主体のまちづくり ～「生涯活躍のまち」ネクストステージに向けて～ 鳥取県西伯郡南部町町長 陶山 清孝さん	p.2
特集「事業承継」	
地域のお困りごとを福祉の方で解決する～ JOCA 南部が取り組む事業承継～ JOCA 南部 亀山 明生さん	p.6
後継者が受け取りやすいようにバトンを渡す 別府市のよみつとん温泉社長 田中 仁さん	p.9
コロナ禍におけるおとりさまの暮らし 作家・エッセイスト 松原 厚子さん	p.11
ただいま地域で奮闘中！vol.7	
福祉と医療の垣根を越えて、地域ぐるみのケアを目指す 株式会社進幸 代表取締役 渡邊 典子さん	p.12
地方創生・BOOK REVIEW ■ INFORMATION 他	p.15

雑誌

#### (ウ) 結果

SNSにおいて、アドバイザーである地方公共団体職員から自地域における「生涯活躍のまち」の取組やそのオンラインイベント情報の発信があり、このイベントに民間企業に属するアドバイザーが参加し、意見交換を行った事例があった。

また、有識者によるオンライン意見交換会においては、13名のアドバイザーが参加。有識者がアドバイザーとしての自身の経験を共有し、アドバイザーが如何に地方公共団体にアプローチしていくのか等、有識者を含めたアドバイザー同士の意見交換を通じて、アドバイスの過程について学ぶとともに、アドバイザー同士の交流を深めることができた。

このように、SNS等のオンラインツールを活用し、アドバイザーとしてのスキルアップ等を目的とした情報発信はアドバイザーの横連携の強化に有用であると考えられる。

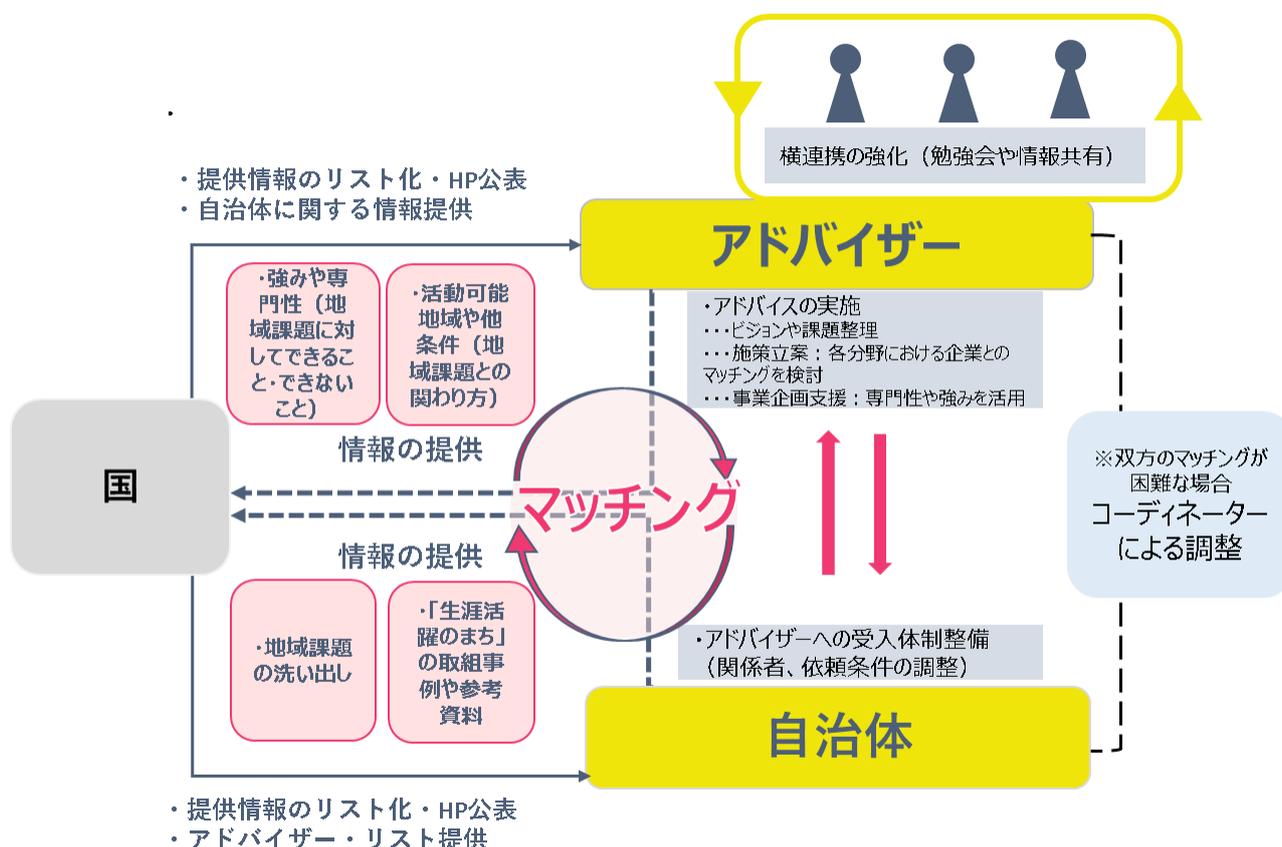
さらに、アドバイザーは多様な業種から成ることから、例えば地方公共団体の職員と民間企業の社員で意見交換を行うなど、異業種間で意見交換を行うこともアドバイザーの横連携強化に資する取組であることの示唆を得た。

#### <改善点>

アドバイザーの横連携の強化のためには、必ずしも恒常的に事務局がフォローを行えるわけではないことから、アドバイザーによる自主的な情報発信が重要であると考えられる。しかし、今回の試行的な情報発信において、一部のアドバイザーによる働きかけはあったものの、全体としてみると、アドバイザー同士の自主的な横連携の取組は限定的であった。そのため、例えばアドバイザー同士のコミュニケーションを活性化させることを目的としたオンライン意見交換会や研修を開催する等、アドバイザーの横連携の意識の醸成を図っていくことが考えられる。

### (3) まとめ

これまでの「地域課題（地方公共団体）とアドバイザーのマッチングのプロセス」「アドバイザーアドバイザーの連携強化についての整理」の検討内容を踏まえ、効果的なマッチングの体制について以下の図のように整理した。



#### <地方公共団体の位置づけ>

地方公共団体が、アドバイザーと効果的にマッチングするためには、「生涯活躍のまち」を推進する上での地域課題を洗い出し、課題の解決に向けて、どのようなアドバイスを受けたいのか明確にする。明確にした課題や「生涯活躍のまち」の取組事例や参考資料は、国に提供し、国のホームページなどで一元的に情報公開することで、アドバイザーが地方公共団体の課題にアクセスしやすくなる。また、国が公表するアドバイザー・リスト（養成したアドバイザーの氏名や所属、専門分野や活動可能なエリア等の情報記載）を活用して、アドバイザーを選定することで、効率的なマッチングが可能である。その上で、アドバイザーの依頼に当たっては、費用面などの依頼条件や、「生涯活躍のまち」の取組における関係部局や関係者との調整を行い、アドバイザーの受入体制を整備することが重要である。

#### ○アドバイザーの位置づけ

アドバイザーが地域とマッチングし課題解決を進めるためには、何が課題かを把握

し、適切なアドバイスを行うことが重要である。アドバイザーは、国のホームページが公表する地方公共団体の取組事例や参考資料、地域課題などの情報を活用し、地方公共団体に直接働きかけることが可能である。また、アドバイザーの強みや専門性についてリスト化したものを国のホームページで公表することで、地方公共団体側からアドバイザーに依頼をすることも想定され、その場合は地域課題や依頼条件を踏まえ、適切なアドバイスを行うことが重要である。

また、アドバイザー同士の連携強化は、地域課題の情報共有やファシリテーションなどの技能に関する勉強会、アドバイザーという垣根を超えた異業種間の交流など、幅広い連携を図ることが想定される。

#### <コーディネーターの位置づけ ※双方のマッチングが困難な場合>

地方公共団体・アドバイザー双方のマッチングが難しい場合は、コーディネーターが意見交換の場などを設け、課題整理や選定条件などを鑑み、マッチングを調整することも想定される。

#### <国の位置づけ>

地方公共団体・アドバイザー双方から提供を受けた情報を管理し、国のホームページ等の信頼性のある場において、双方がマッチングしやすい環境を提供する。公表する情報は地方公共団体の地域課題や取組事例、アドバイザーの強みや専門性、活動可能な地域を示したリストなどが想定される。

## (参考) アドバイザー・地方公共団体のマッチングのための必要な情報例

### ①アドバイザーに関するもの

- ・アドバイザー個人の基本情報
  - 氏名、所属先、連絡先（電話番号、E-mail 等）、
- ・アドバイザーとして支援可能な内容
  - 専門的な知見や強み等
- ・アドバイザーとしての活動条件
  - 活動可能な地域、謝礼や交通費の必要経費等
- ・過去のアドバイザーの活動事例（活動を行った自治体、参加したアドバイザーの情報、アドバイス内容、反省点や失敗事例等）

### ②地方公共団体に関するもの

- ・窓口の基本情報
  - 部署名、連絡先（住所、電話、担当者名、担当者 E-mail 等）、HP アドレス等
- ・「生涯活躍のまち」の基本情報や取組状況
  - 地方版総合戦略、「生涯活躍のまち」構想、「生涯活躍のまち」の取組の基本情報（これまでの事業成果や今後の目標、事業主体、実施対象エリア、参加団体、「生涯活躍のまち」における5機能に関する各取組内容、予算内容、交付金等の活用の有無等）
- ・「生涯活躍のまち」の取組に関する課題について
  - 事前に洗い出した課題内容（課題の洗い出しに関係する部局や関係者、連携を行った団体等）

### ③その他

- ・「生涯活躍のまち」の官民連携の取組
- ・「生涯活躍のまち」に限らない地方創生全般の取組
- ・アドバイスのスキル向上のための情報（ファシリテーションやプレゼンテーション手法など）

## 2. 2アドバイザーの養成

### 2. 2. 1アドバイザー研修の試行的な実施

#### (1) 研修の実施

	開催地	実施日
①第1回	名古屋開催	令和2年9月16日～18日
②第2回	福岡開催	令和2年11月11日～13日
③第3回	オンライン開催	令和3年2月16日～18日

#### プログラム詳細

・講義：「生涯活躍のまち」の基本コンセプトや「生涯活躍のまち」に関する5つの機能に基づく内容、ファシリテーションなどの技能

内容	講師・講演者
生涯活躍のまち構想の基本コンセプト	内閣官房
生涯活躍と「交流・居場所」、「活躍・しごと」	堀田委員
生涯活躍と「住まい」	仁科委員
生涯活躍と「健康」	後藤委員
生涯活躍と「人の流れづくり」	松田委員
地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち	西上委員

・報告会：現地調査に参加したアドバイザーの体験談、アドバイザーに求められる資質、現状の課題等の報告、アドバイザーの在り方や役割

生涯活躍のまちアドバイザーによる報告・議論
第1回：高知市におけるマッチング試行事業
第2回：駒ヶ根市におけるマッチング試行事業
第3回：南伊豆町におけるマッチング試行事業

・グループワーク：アドバイスをするモデル地方公共団体を設定し、グループワークを通じた質問・意見交換による課題抽出、アドバイス内容の検討。

ワークの流れ
1. 「ケーススタディ：課題の抽出と整理」
2. 「生涯活躍のまち事業の課題の明確化」
3. 「生涯活躍のまち事業の骨子の作成」

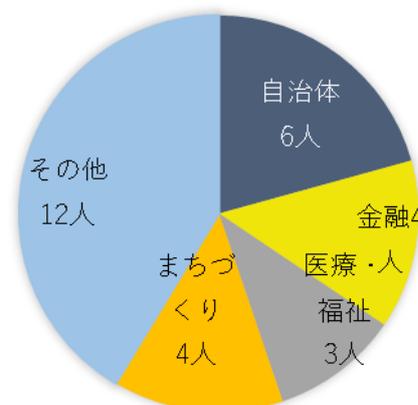
## (2) 研修の結果

### ①第1回

#### 【受講生の主な意見】

- ・自分がアドバイザーとして地域に入って活動するというイメージをもつことができない。
- ・生涯活躍のまちアドバイザーとしての専門的スキルが研修で身に着いたとはいえない。
- ・アドバイザーについての認識を共有するには不十分であり、その定義に関する共通理解が必要ではないか。
- ・受講生同士の関係構築や、より実践に近い学びの機会があればいい。

全参加者 29人  
(修了者17名)



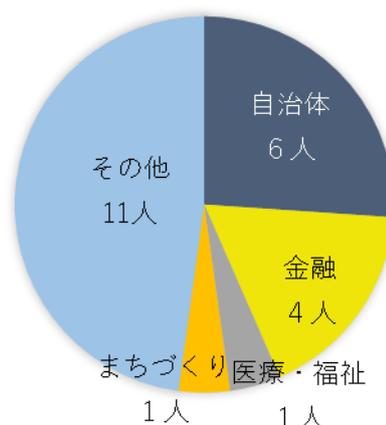
### ②第2回

前回研修からの改善点等：アドバイザーが地域に参加するイメージ付けや、定義を明確にすることを軸に講義を行った。また、グループワークについて、①アドバイスを行うモデル地方公共団体を設定しアドバイス内容を検討する、②各グループに対して1名、地域課題を持つ地方公共団体を設定しアドバイスを実践する方法によって、アドバイザーとしての当事者意識の醸成を図った。

#### 【受講生の主な意見】

- ・交付金はどのような事業に活用できるのか、事業のどの部分に活用しているのか。
- ・アドバイザーの役割は理解したものの、アドバイザーの提案や取り組みを企業の立場として行うのか、一個人として行うのか、アドバイザーの立ち位置を明確にすることが必要ではないか。
- ・アドバイザー研修のフォロー研修を継続的に行ってほしい。

全参加者 23人  
(修了者16名)



### ③第3回

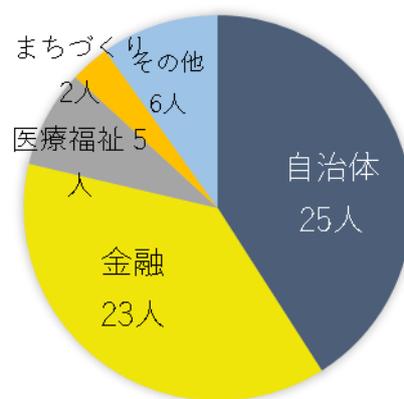
前回研修からの改善点等：過去に開催した研修における受講生の意見やコロナ禍における足下の状況等を考慮し、本研修では以下の改善を行った。また、全日程、オンラインによる開催。オンラインでの講義、グループワークのほか、チャットによる質

問募集を実施した。また、オンライン開催の特徴を生かして、「生涯活躍のまち」を推進している5地方公共団体の担当者に講師として登壇いただき、受講生はグループに分かれ、それぞれ地方公共団体に対してアドバイスを行った。

#### 【受講生の主な意見】

- ・コーチング演習、具体的なビジョンの作り方なども知りたかった。
- ・もっとファシリテーターのスキル、人（集団）の動かし方を学び合いたい。
- ・実際に行政職員のほか、地元住民の方々とも議論できるフィールドワークがあってもいいかもしれない。
- ・アドバイザーや取組を進めている方たち同士のネットワークやコミュニティのようなものがあれば、より情報収集などしやすくなるのではないかと思った。
- ・アドバイザーがアドバイスして成功した事例などをナレッジデータベース化して活用するとアドバイザー間の情報連携やスキルアップにつながるのではないか。

全参加者数 61名  
(修了者50名)



### (3) まとめ

3回の研修を通して、研修の体制や研修の内容については以下のように考えられる。まず、研修の内容としては、官民連携の方法や経営手法といった、地方公共団体が持ちえないノウハウや、ファシリテーションなどのスキルアップ研修は、アドバイザーという枠に収まらない個人や企業の研修にも波及できると考えられ、研修内容として参加者に大きなメリットがあると考えられる。

また、実践的な研修方法に挙げられたものとして、地方公共団体を訪問し関係者との意見交換などを行うフィールドワーク形式の研修は、座学では見通せない地域の実態を知ることができ、アドバイザーとしての実感の醸成には効果的であると考えられる。

また、地域の事例や実際にアドバイスを実践したアドバイザーの成功例・失敗例をデータ化し活用することも、研修内容の方法として考えられる。

こうした研修を実施する体制としては、アドバイザー同士の連携強化の一環として、独自にセミナーや勉強会を開く方法が考えられる。このような横の繋がりを活かした方法は、互いの切磋によってスキル向上や、アドバイザーの質のそのもの向上につながり、将来的には、地域課題の解決向上につながるものと期待できる。また、具体的な取組として、新型コロナウイルスの影響により普及したオンラインの手法を活用す

ることで、会場やその他経費などの準備を必要とせず、柔軟にアドバイザー同士の連携強化を図ることが可能である。

## 2. 2. 2 研修テキストの作成

### (1) アンケート調査の概要

アドバイザーへアドバイザーの養成に活用できる研修テキストに関してアンケート調査を実施した。有識者会議にて委員の意見を踏まえて、事務局が案を作成し、第3回の研修時に配布し、①「研修テキストに求められる内容」②「研修テキストの有効な活用方法」を確認した。

### (2) アンケート結果

#### ① 研修テキストに求められる内容

- ・「生涯活躍のまち」の5つの機能に関するアドバイスの観点に加えて、実際の地方公共団体の取組など、詳細な事例は活用しやすい。
- ・事例の掲載と併せて、実際に地方公共団体が交付金の活用などを行っている場合は、どのような制度を活用したのか知りたい。

#### ② 研修テキストの有効な活用方法

- ・アドバイザー同士が行う独自の勉強会やセミナーなどで活用できる。
- ・アドバイザーが講師となり、自分が所属する企業や団体の中の自主的なアドバイザー養成に活用できると思料。
- ・サテライトオフィスやワーケーションなど企業が地方創生事業に関わる機会も増えると思う。企業内での研修などにも利用できるのでは。
- ・地方公共団体が独自に行うワーキングなどで活用。アドバイザーの視点を養うことは、アドバイスをを行う側だけでなく、行政職員など地域課題を洗い出す側にも有効と考える。
- ・「生涯活躍のまち」ガイドラインと併せて、「生涯活躍のまち」の取組方針や内容の充実化を図る上で活用できる（特に事例など）

### (3) まとめ

アンケート内容を踏まえ、交付金の利活用に関する事例も追記することとした。

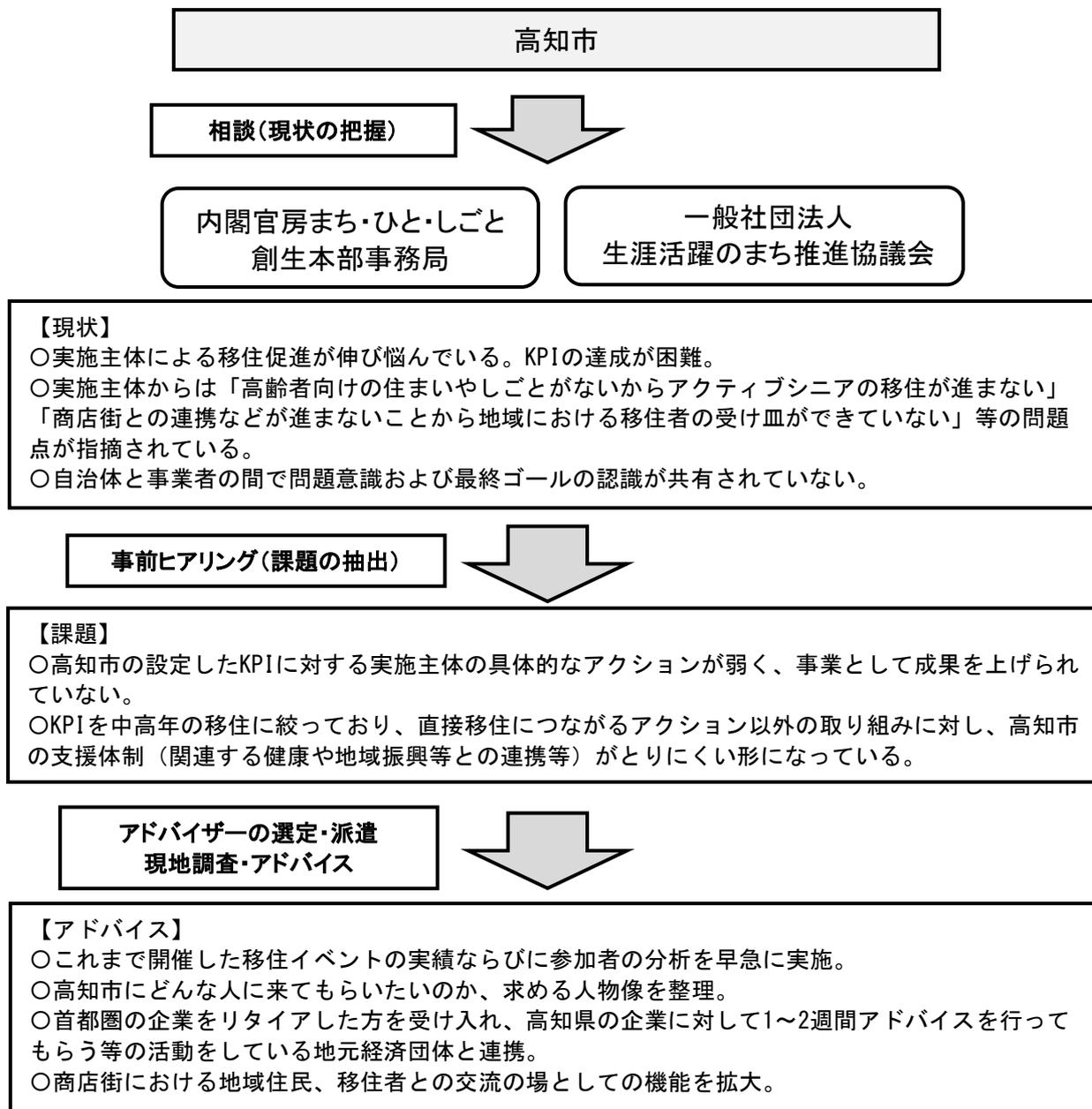
研修テキストの利用に当たっては、先に述べたアドバイザー同士の連携強化の一環として行う勉強会やセミナーに活用できるほか、地方公共団体内部でのアドバイザー的な観点を養うための研修にも役立つという示唆があった。また、現在、新型コロナウイルスの影響もあり、サテライトオフィスやワーケーションの活用に対して関心が高まっている中で、地方への人材活用や地方創生事業に取り組む、あるいは今後検討している企業において、地方公共団体の事例やアドバイザー的な観点を研修等で学ぶことにも一定程度利用できると考える。

(参考)

# 1. 現地調査及び試行的マッチングの実施概要

## 調査研究の経過

高知市における事業の流れ



帯屋町商店街の視察



経済団体へのヒアリング調査

(1) 事前調査

高知市コンセプト表

**全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の取組事例（高知県高知市（こうちし））** R2.4月1日時点

**◆コンセプト：「生涯現役！こうちらいふで人生二毛作」**

穏やかな気候や美味しい食、暮らしやすいコンパクトシティ、人懐っこい県民性など、本市の魅力や特色を活かした移住施策の一つとして、健康でアクティブな概ね 50歳以上の方をメインターゲットに、これまで積み上げてきた知識やスキル等を活かし、生きがいと安心をもって暮らすことができるまちづくりをめざす。

**<特徴>**

- ① 官民が連携し、それぞれの強みを活かした事業を展開する。
- ② 本市の居住誘導区域に地域交流拠点を整備し、地域住民と移住者の交流を促進する。
- ③ 大都市圏の大学等で開催する土佐学講座や交流会、移住相談会を通して、本市の魅力や文化などを発信し、高知ファンを増やす。
- ④ 「食」と「運動」による低栄養予防（フレイル予防）をテーマに、全世代型交流拠点となるフィットネススクールを開設・運営する。

**<生涯活躍のまちの地域交流拠点>**

○ 各拠点にコンシェルジュを配置し、地域住民や移住者からの相談や交流事業を開催。

帯屋町健康サポートセンター  
高知サマザマCCRCセンター

**基礎データ**

- 人口：325,706人（R2.4月時点）
- H30.9 高知市版「生涯活躍のまち」構想・基本計画を策定。
- H31.3 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）の認定。
- H31.4 公募により事業主体（2事業者）を選定し、地方創生推進交付金を活用した「高知市生涯活躍のまち推進事業費補助金」を創設して事業主体の活動を支援。
- 事業主体が居住誘導区域内に地域交流拠点（2カ所）を整備。

**◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり**

**【交流・居場所】**

【主な取組内容・進捗状況】

- 地域交流拠点を市内2カ所を整備し、移住者や地域住民が気軽に集える居場所を創出。また、県外での交流会も開催。

【今後の展開】

- 地域交流拠点に配置されたコンシェルジュが、定期的なイベントを開催。また、県外での各種イベントや市民向けの啓発活動も展開。

**【交流・活動】**

【主な取組内容・進捗状況】

- 産業・観光・福祉・コミュニティ・趣味など、あらゆる活躍の場を、パンフレット・高知求人ネット等を活用し発信する。

【今後の展開】

- 民間企業や関係団体等と連携し、アクティブシニアのスキルを活かした活躍の場を提供。

**【居場所づくり】**

【主な取組内容・進捗状況】

- 介護予防を目的に、本市が開発した高齢者を元気にする「百歳体操」が、現在市内350カ所以上で開催されている。

【今後の展開】

- 地域交流拠点で介護予防やフレイル予防を実施するとともに、全世代が楽しい、交流を図るための拠点としてフィットネススクールを開設。

**【住まい】**

【主な取組内容・進捗状況】

- 本市への移住を希望されている方が気軽に利用できる「お試し滞在施設」を運用している（家具・家電付き）。

【今後の展開】

- 民間事業者のネットワーク等を活用した空き家の掘り起こしや、移住者のニーズに沿った住まいの提案を行う。

**◆コミュニティへの人の流れ**

**【よさこい】を通じたコミュニティ**

○ 本市発祥の「よさこい」は、全国のお祭りやイベントでも取り入れられ、全国各地でよさこいに触れる機会が多くなっている。よさこいを通じて本市との繋がりを生み出し、関係人口やよさこい移住を推進する。

**◆そのほかの取り組み**

**県内での「二段階移住」をサポート**

○ 移住へのミスマッチを防ぐために、まずは比較的都市部の高知市へ移住・滞在（一段階目）し、そこを拠点に県内を巡り、自分にあった場所を見つけて安心して最終的な移住（二段階目）をしてもらうもの。

高知市生涯活躍のまち推進事業の展開（案）



くろしお医療福祉(株)コンセプト表

機能	(参照) ガイドライン	目標とする状態像	関係する事業・取組
1. 交流・居場所	あらゆる者がかかわりを持ち、ごちゃまぜで集える場	<p>○地域交流拠点の帯屋町健康サポートセンターのイベントに多種多様の事業者が関与し、地域住民との多世代交流の下、就労、ボランティア、ヘルスケア、生涯学習などの機会創出を図る。</p> <p>○帯屋町筋商店街が高齢者のフレイル予防（歩く・食べる・交流する）のステージとなるビジネスモデルを創出する。※高齢者の低栄養防止コンソーシアム（高齢者の低栄養予防を共通目的にビジネス連携する共同事業体）との連携。</p>	<p>○帯屋町健康サポートセンター/イベント（いきいき百歳体操、土佐茶カフェ、RIZAP 健康セミナー、栄養セミナー、折紙教室、脳トレ等）</p> <p>○フィットネススクール/ロコモ K.0（地域交流拠点サテライト/8月20日プレオープン）</p> <p>○高知市「介護予防・日常生活総合事業」との連携（栄養ケアサポート薬局による低栄養/フレイル対策事業との連携）</p>
2. 活躍・しごと	様々なコミュニティ活動や就業など役割をもって従事する	<p>○JA 健康長寿 100 歳プロジェクトと栄養ケアサポート薬局事業の連携→低栄養予防の医療介入と薬食同源の食育による就農人口の増加→移住者の就農支援。</p> <p>○帯屋町筋商店街の利用客数を増加させることで、商業施設/商店への就業促進→商店の後継者問題の解決へ。</p> <p>○栄養ケアサポート薬局の増数により、薬剤師/管理栄養士/ボランティアスタッフの就業促進を行う。</p> <p>※薬局内で少人数のいきいき百歳体操を行い、家に閉じこもりがちな高齢者の居場所を創出する。</p>	<p>○JA 宅老所での栄養ケアセミナーの実施</p> <p>○機能性食品の利活用促進による就農促進</p> <p>○帯屋町筋商店街振興組合との連携</p> <p>○飲食店で提供するアンチエイジングメニューの開発、自然免疫を高める食材の活用</p> <p>○フレイル予防（歩く・食べる・交流する）に資する商店の利活用促進</p> <p>○栄養ケアサポート薬局の事業拡散</p> <p>※自治体事業との連携</p>
3. 住まい	コミュニティとの関係性を重視した住宅環境の整備等	<p>○高知市生涯活躍のまち事業「応援隊」に加盟する不動産会社（アパマンショップ）、住宅メーカー（和建設、ミサワホーム）による住宅情報</p>	<p>○よさこい移住（よさこい祭りを愛する人々を聖地/高知市へ移住促進するプラン）</p>

		<p>の提供や高知市空家バンクと連携したリフォームプランの情報提供。</p> <p>○ワーケーションを介した2段階移住プランの開発</p>	<p>○帯屋町健康サポートセンターで移住先（住宅環境）情報を集約し、情報提供する</p> <p>※移住相談会の開催</p>
4. 健康	いつまでも健康で活躍	<p>○薬食同源の食育（アンチエイジング/メタボ対策～低栄養予防）と薬学的栄養ケアサポートを供する栄養ケアサポート薬局を増数し、地域住民が気軽に無料で健康相談できるスポットを創出し、健康寿命延伸に資する体制を整備する。</p> <p>○栄養ケアサポート薬局を基点に病院・診療所、歯科・福祉施設が連携する地域包括ケアシステムを整備し、セルフメディケーションの下、健康維持できる体制を整備する。</p> <p>○帯屋町筋商店街がフレイル予防ステージ（コミュニティ）となる体制整備</p>	<p>○厚生労働省/医療費適正化推進事業「高齢者の低栄養防止・重症化予防等推進事業」</p> <p>○厚生労働省「保健事業と介護予防の一体的な実施」</p> <p>○介護予防・日常生活総合事業における栄養ケアサポート薬局の住民周知</p> <p>○高齢者の低栄養防止コンソーシアム</p> <p>○JA 健康長寿 100 歳プロジェクト宅老所栄養ケアセミナー</p> <p>○フィットネススクールロコモ K.0 事業</p> <p>○リハビリテーション栄養：推進事業</p>
5. 人の流れづくり	都市部との人材循環など関係人口づくり	<p>○高知で誕生した「栄養ケアサポート薬局」が全国拡散する中、都市部の薬剤師/管理栄養士との関係人口づくりを推進する。</p> <p>○一社）在宅栄養ケア推進基金が創出した「高齢者の低栄養防止コンソーシアム」の各県設置により、農水畜産生産者とヘルスケア事業者をビジネスマッチングし、関係人口を創出する。</p> <p>○ワーケーションプランを開発し、都市部の企業人を誘致するなど、関係人口づくりを行う。</p>	<p>○厚生労働省「在宅医療連携拠点事業」</p> <p>○栄養ケアサポート薬局：創出事業</p> <p>○高齢者の低栄養防止コンソーシアム（ビジネスマッチング交流会）</p> <p>○かかりつけ薬局・地域連携薬局</p> <p>○JTB（ヘルスツーリング）</p> <p>○内閣府：災害時個別ケアプラン策定支援システム開発事業</p>

		<p>※（一社）在宅栄養ケア推進基金の賛助企業（キューピー、ネスレ日本、旭松食品、クリニコ、キング醸造など）のワーケーションによる関係人口づくり</p> <p>○一社）共生社会支援協議会を介した防災減災関係者との関係人口づくりを推進する。</p>	○福岡ヘルス・ラボ実証事業「栄養ケアサポート薬局事業」
--	--	---	-----------------------------

（一社）高知サマサマ CCRC センターコンセプト表

機能	(参照) ガイドライン	目標とする状態像	関係する事業・取組
1. 交流・居場所	あらゆる者がかかわりを持ち、ごちゃまぜで集える場	<p>○高知市の中心地にある高知サマサマ CCRC センターでは高知へ移住してきた方々と地元高知に住んでいる方々との交流の場をつくり、行政では手の届かない本音の相談ごとに対応する。</p> <p>○高知市郊外にある「土佐のデンマーク」と言われる旧春野町エリアに多世代の人たちが集う場を構築していく。</p>	<p>○HP にて移住者のブログを掲載、首都圏でのイベント情報、移住者相談の発信を行っている。また地域のシニア世代の音楽ライブ、夜学会の模様を掲載している。</p> <p>○毎月開催している高知移住者交流会での情報、課題点を拾い出していくことで、何をやるべきかが見えてきている。</p>
2. 活躍・しごと	様々なコミュニティ活動や就業など役割をもって従事する	<p>○シングルマザー、シニア世代、若者（青年団）、軽度の障害者のグループ、サ高住の高齢者、耕作放棄地、温泉宿泊施設、文化ホール、地引網漁業、ウミガメが産卵する浜辺、高知県一の園芸農家、歴史ある民俗芸能等を組み合わせての生涯活躍のまち構想を構築していく。</p> <p>○耕作放棄地、空き家の活用、空き店舗、農業漁業の事業承継。</p>	<p>○旧春野町エリアの住民意識調査、(商工会、農協、漁協)、耕作放棄地、空き家の現状調査</p> <p>○ヒトと人とのマッチング、ヒトと仕事のマッチング</p>
3. 住まい	コミュニティとの関係性を重視した住宅環境の整備等	○高知市中心地では懇意の不動産会社、マンション管理会社が管理している物件の紹介をしている。空き家	○住みやすいコンパクトシティである高知市で改築できる空き家物件の情報収集。

		については個別で対応するしかないのが現状。	
4. 健康	いつまでも健康で活躍	○地域と共に生活して溶け込めるコミュニティ形成、地元の行事、まつり、生涯学習等への参加、もしものときの社会福祉施設、病院との連携。	○高知市郊外型(旧春野町エリア)にある温泉、サ高住、リハビリ病院、春野総合運動公園、文化ホールとの連動性。
5. 人の流れづくり	都市部との人材循環など関係人口づくり	○温暖な高知の自然にふれあい、海山川の美味しい食を楽しみ、南方系の土佐人氣質に馴染むことができれば、システムティックな都会の生活から解放され「豊かな時間」が手に入る。 ○都会で子育て移動に負担を感じているシングルマザーにとって安価で快適な住まいがあれば高知で子育てと仕事が両立できる。ある程度自給自足的生活をしているシニア世代の生活を見せる。	○高知で楽しく生活している人たち訪問ツアー、早稲田大学エクステンションセンターでのシニア世代向け「土佐学講座」を毎年コーディネートしている。同時期都市ホテルにて高知の観光食イベントを開催している。

## (2) 現地調査の概要

高知市は「生涯現役！ こうちらいふで『人生二毛作』」のキャッチコピーの下、「新しい人の流れや交流を生み出し、本市への移住・定住者の増加をめざす」「子どもから高齢者までの全ての市民が、夢と希望を持って暮らすことができる、にぎわいと安心のまちづくりをめざす」「経験や知識を活かし、本市の各分野で活躍する意欲を持つ中高年齢者（アクティブシニア）がターゲット」という目標を設定しているが、事業主体である「くろしお医療福祉株式会社（以下、くろしお医療福祉）」および「一般社団法人高知サマサマCCRCセンター（以下、CCRCセンター）」による移住促進は伸び悩んでおり、KPIの達成（アクティブシニアの移住組者数をKPI=2事業者を通してアクティブシニア20組）が困難なのが現状である。

上記の課題を鑑みて、生涯活躍のまちアドバイザーのリストから不動産コンサルティング・コプラスの田坂妙子氏、有識者である（公社）青年海外協力協会の堀田直揮氏をアドバイザーに選定。田坂氏からは、CCRCセンターに対し、これまで開催してきた移住イベントの移住実績ならびに参加者のニーズ分析、移住希望の高齢者に地元の不動産やオーナーが住まいを貸したがない現状において、CCRCセンターが保証人（遠くに住んでいる場合）代理として見守りサービスを行い共益費の一部を収入とする、定期借家の制度を使った提案（本当に希望する住まいを見つけるまでの2年間限定等）を通して、空き室対策に悩む管理会社にアプローチするといった提案を行った。堀田氏からは、くろしお医療福祉の拠点（帯屋町商店街健康サポートセンター）がある帯屋町商店街が商店街の活性化のためには住民との関係性の強化を希望していることを受けて、同センターを商店街、住民、移住者のハブにすることを提案。地域住民、移住者との交流の場としての機能を有することで、「こんな人に来てほしい」「空き家がある」などの情報が集まってくるようになれば、それが結果として移住者を増やすことにつながるとした。

### (3) アドバイス

#### アドバイザーの提案資料①

生涯活躍のまちアドバイザー派遣

アクティブシニアの移住促進に向けて

#### 「移住者像 = ターゲット」の明確化

どんな人に移住してきてもらいたいのか??  
求める人物像をもう一度、整理をして募集する  
商店街、同友会なども含め地元住民にヒアリング

年齢、性別→50歳? 60歳? 70歳?

Uターン?、Iターン??→地縁の有無、地縁が無いとなぜNGなのか?

家族構成→単身、夫婦、兄弟、姉妹、友人同士

これまでのキャリアとこれからの仕事→経験を生かし地元へ貢献

住まい→エリア、価格、広さ、賃貸or所有権など空き家対策の対象となるか?

趣味、生き方→移住者がいることで活性化できることなど

## 移住希望者のニーズの分析、理解

何を求めて高知市に興味を持ち、何が足りないから移住に繋がらないのか？

**移住イベント参加者情報、移住者実績の集計と分析を早急に実施!!**



年齢、性別

Uターン？、Iターン??

家族構成→単身、夫婦、兄弟、姉妹、友人同士

これまでのキャリアとこれからの仕事→移住者の職業は？

住まい→実際、どこに住んでいるのか？

趣味、生き方→どんな風に高知市で暮らしているのか？

ターゲットが興味を持ちそうな媒体  
やイベントでアピールを実施!!



具体的な移住相談へ

## 移住希望者と地元のニーズのマッチングをして 誰もが居場所があって輝ける生涯活躍のまち!!

コアが決まったら問題解決のお手伝い  
一つずつ掘り下げて、寄り添って解決まで導く

自然の豊かなところで  
農業を暮らしたい



担い手不足の農家

- ・家はあるか
- ・収入は確保できるか
- ・家族の反対に合わないか
- ・農業の経験が無いけど本当にできるか
- ・自然以外の娯楽施設はあるのか
- ・友達ができるか

- ・地縁のある人がいい
- ・若い人がいい
- ・本当に続くのか
- ・どんな人物か分からない

## 住める家がない?! 借りられない??

「高齢者には貸したく無い」原因は何か??

◇保証人がいたとしても万が一の時に来られる距離に住んでいない  
→高知サマサマCCRCセンターが保証人の代わりに駆けつける

◇孤独死の問題

- ・単身者の場合、発見が遅れてその後の後処理にお金がかかる  
状況によっては、次に貸せる状態へ現状復帰が困難
  - ・相続人と疎遠で残置物の処分さえ不可
- 地域と繋がることで孤独死防止の仕組みを作る  
→設備による生存確認

- ・認知症になった後に仕事が出来なくなり賃料回収が難しい  
→事前に契約の特約事項を定めておく

定期借家の制度を使った提案、空室対策に悩む管理会社へのアプローチなど

アドバイザーの提案資料②

高知サマサマCCRCセンター

○ 仕事がない…

- ・ 季節限定の仕事はありそう
- ・ 承継の可能性をもう少し調べてみるのも良いのでは

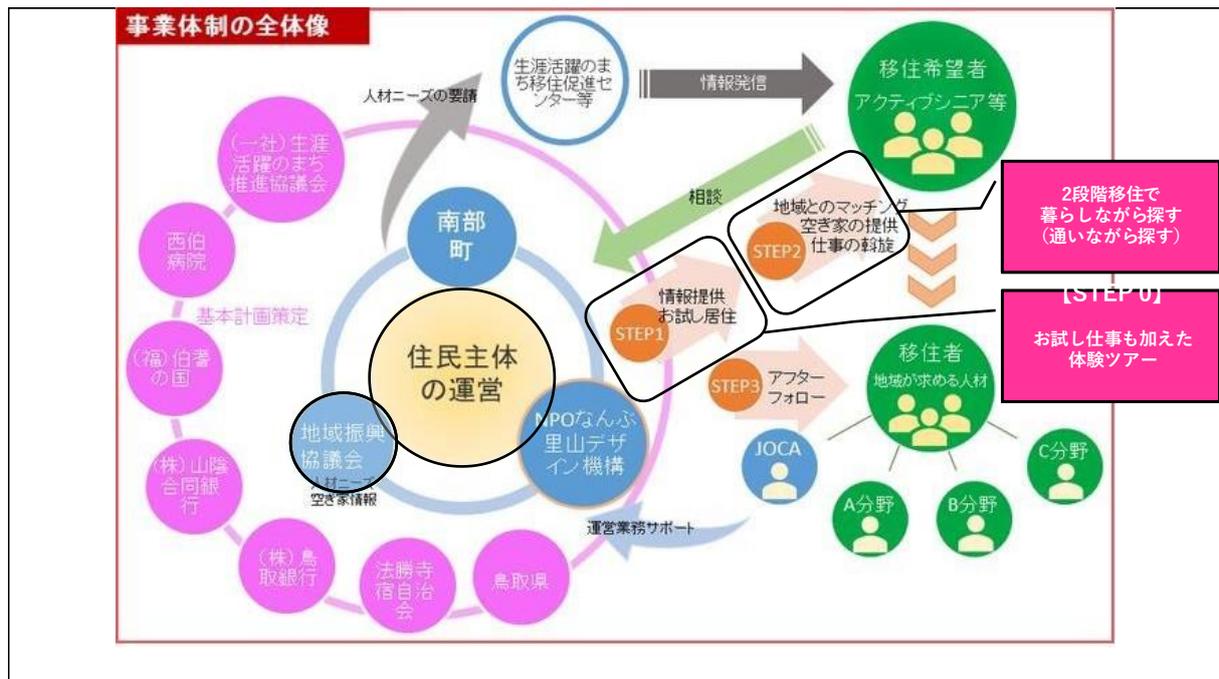
○ 住まいがない…

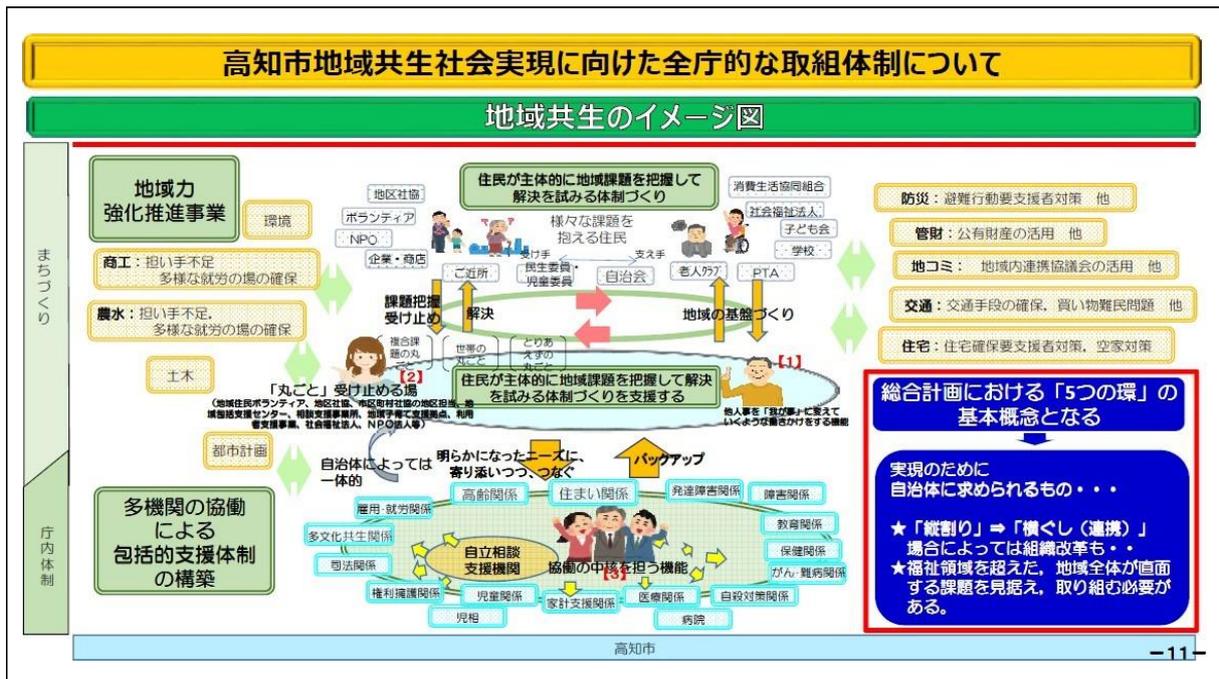
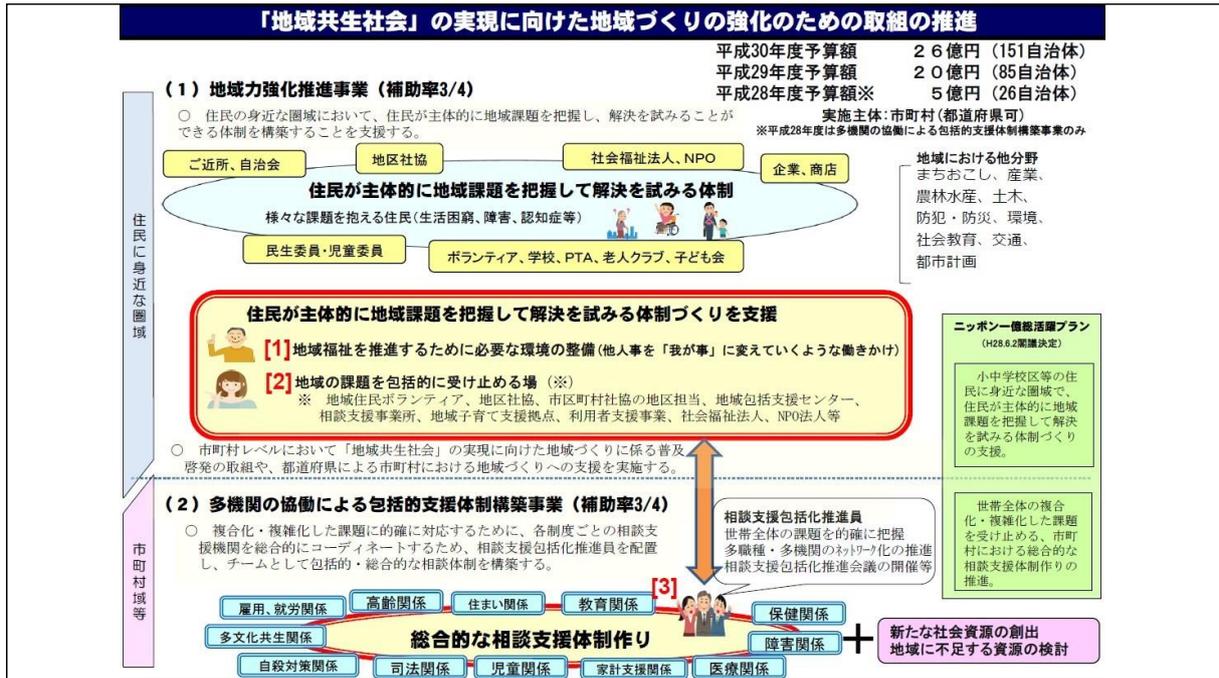
- ・ 空き家再生には時間が必要
- ・ 高知市内2段階移住のようなことを検討してはどうか

○ 体験ツアーをどのように…

- ・ 高知はすでにブランドイメージがある
- そのため、移住希望者の要望が先行しマッチングが難しいという側面がないか  
(こういう層に対応している移住サポートは既に存在する)
- ・ 受入側でストーリーを作成して呼び込んでみるのも良いのではないかと

⇒ 長期滞在型観光(経済同友会)との連携可能性





## 自分のための仲間づくり・居場所づくり

週1回・2時間・6~7人

自分のための居場所づくり(映画鑑賞会/カラオケの会/ビートルズの親父バンド)

### 地域介護予防活動支援事業

社会参加(=仲間づくり)  
(1万人あたり10箇所!)

通所型B

訪問型B

67歳で始めて、5年たてば、その集まりはミニデイ

出典：平成26年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金：地域支援事業の新しい総合事業の市町村による円滑な実施に向けた調査研究事業

Xさんが来てない？心配だね。帰りに寄ってみよう！

顔なじみの関係で見守りや電球交換の支えあい

●「措置」ではなく、「自立と尊厳」の観点だからできること。

- 地域のためではなく、自分の5年後、10年後のための取り組み
- 自分にあった仲間づくり・居場所づくりを自分で始めてもらう
- 社会参加が進めば、結果的に閉じこもり予防・介護予防になる！

## くろしお医療福祉株式会社

### ○フレイル予防を軸に展開

- ・フレイル予防は大切な事業であるが、移住者や住民への看板としてはマイナスでは
- ・食、健康としてもっとポジティブな発信は可能 → GKHのようなデータは面白い

### ○商店街を巻き込みたい

- ・商店街の課題に軸を寄せれば連携は充分可能  
(周辺住民の「居場所」「交流」の役割を商店街が果たせないか検討)
- ・商店街、住民、移住者のハブになる機能を持ってないか

### ○地域交流拠点の活用

- ・地域交流拠点が、住民と住民、住民と移住(希望)者をつなぐ機能を果たしているか
- ・帯屋町交流拠点の周辺住民を対象にしたプログラムを作れないか  
(健康だけでなく、商店街をテーマにしたものなども含め)  
→ 帯屋町周辺住民の「居場所」づくり
- ・健康ポイントと商店街クーポンの連携はできないか

### 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生

～都市におけるイノベーションの創出と人間中心の豊かな生活の実現～

#### 2. 今後のまちづくりの方向性と「10の構成要素」

- 今後のまちづくりにおいては、コンパクト・プラス・ネットワーク等の都市再生の取組をさらに進化させ、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成する必要。
- これにより、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現し、まちの魅力・磁力・国際競争力の向上が内外の多様な人材、関係人口を更に惹きつける好循環が確立された都市の構築を図るべき。

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進  
※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能



### 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生

～都市におけるイノベーションの創出と人間中心の豊かな生活の実現～

#### 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成のイメージ例

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進  
※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能

**居心地が良く歩きたくなるまちなか**

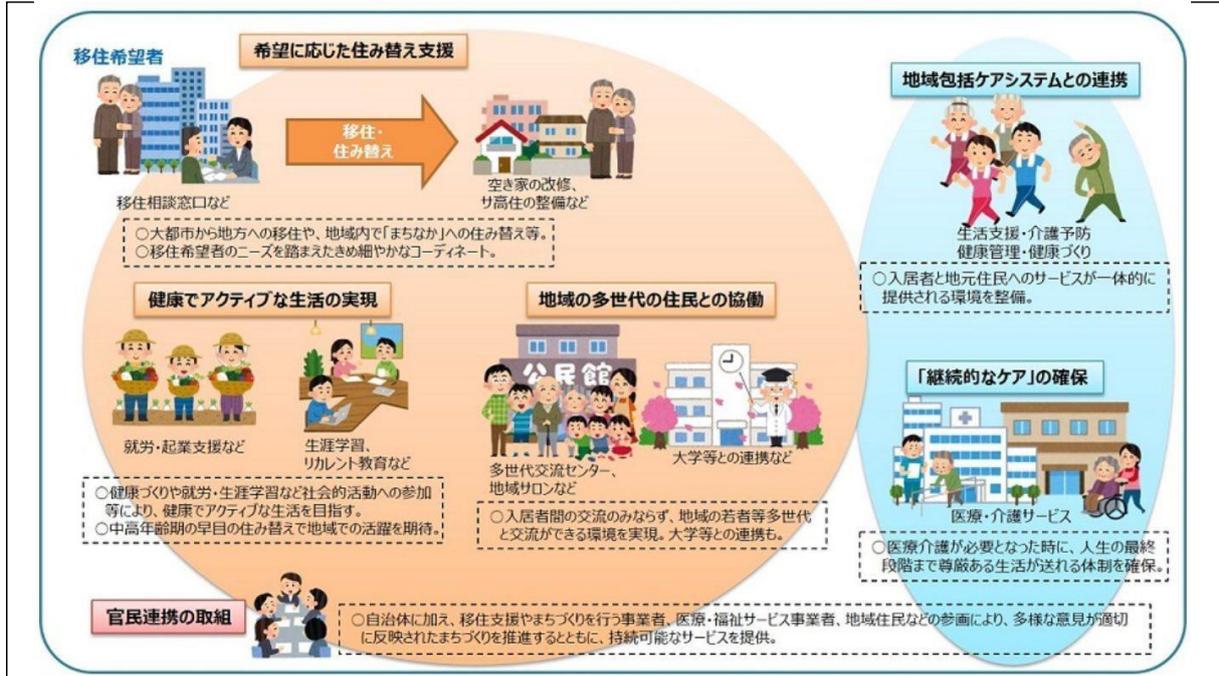
<b>Walkable</b>	歩きたくなる	居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたい、歩きたくなる。
<b>Eye level</b>	まちに開かれた1階	歩行者目線の1階部分等に店舗やラオがあり、ガラス張りで見えたら、人は歩いて楽しくなる。
<b>Diversity</b>	多様な人の多様な用途、使い方	多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。
<b>Open</b>	開かれた空間が心地良い	歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

**都市構造の改変等**

- 都市構造の改変（通過交通をまちなか外へ誘導するための外周道路整備等）
- 都市機能や居住機能の戦略的誘導と地域公共交通ネットワークの形成
- 拠点と周辺エリアの有機的連携
- データ基盤の整備（人流・交通流、都市活動等に係るデータプラットフォームの構築等）等

**イメージ例**

- 1階をガラス張りの店舗にリノベーションし、アクティビティを可視化、民間施設の一部を広域化（宮崎県日南市）
- 2つの開けた空間により、一体整備された緑と森（東京都中央区）
- 駅前トランスポートモール化と広場創出（兵庫県姫路市）
- 過剰を占用した民間オープンカフェ（福岡県北九州市）
- 公園を芝生や民間カフェ設置で再生（東京都豊島区）



## 「移住」以外の取組み

「コミュニティ」にもフォーカスをあてて活動することで

結果、「移住」の取組みも明確になる

### 高知サマサマCCRCセンター

#### ○ 仕事がない…

- ・ 季節限定の仕事はありそう
- ・ 承継の可能性をもう少し調べてみるのも良いのでは

#### ○ 住まいがない…

- ・ 空き家再生には時間が必要
- ・ 高知市内2段階移住のようなことを検討してはどうか

#### ○ 体験ツアーをどのように…

- ・ 高知はすでにブランドイメージがある  
→そのため、移住希望者の要望が先行しマッチングが難しいという側面がないか  
(こういう層に対応している移住サポートは既に存在する)
- ・ 受入側でストーリーを作成して呼び込んでも良いのではないかと



長期滞在型観光(経済同友会)との連携可能性

## くろしお医療福祉株式会社

### ○ フレイル予防を軸に展開

- ・フレイル予防は大切な事業であるが、移住者や住民への看板としてはマイナスでは
- ・食、健康としてもっとポジティブな発信は可能 → GKHのようなデータは面白い

### ○ 商店街を巻き込みたい

- ・商店街の課題に軸を寄せれば連携は充分可能  
(周辺住民の「居場所」「交流」の役割を商店街が果たせないか検討)
- ・商店街、住民、移住者のハブになる機能を持ってないか

### ○ 地域交流拠点の活用

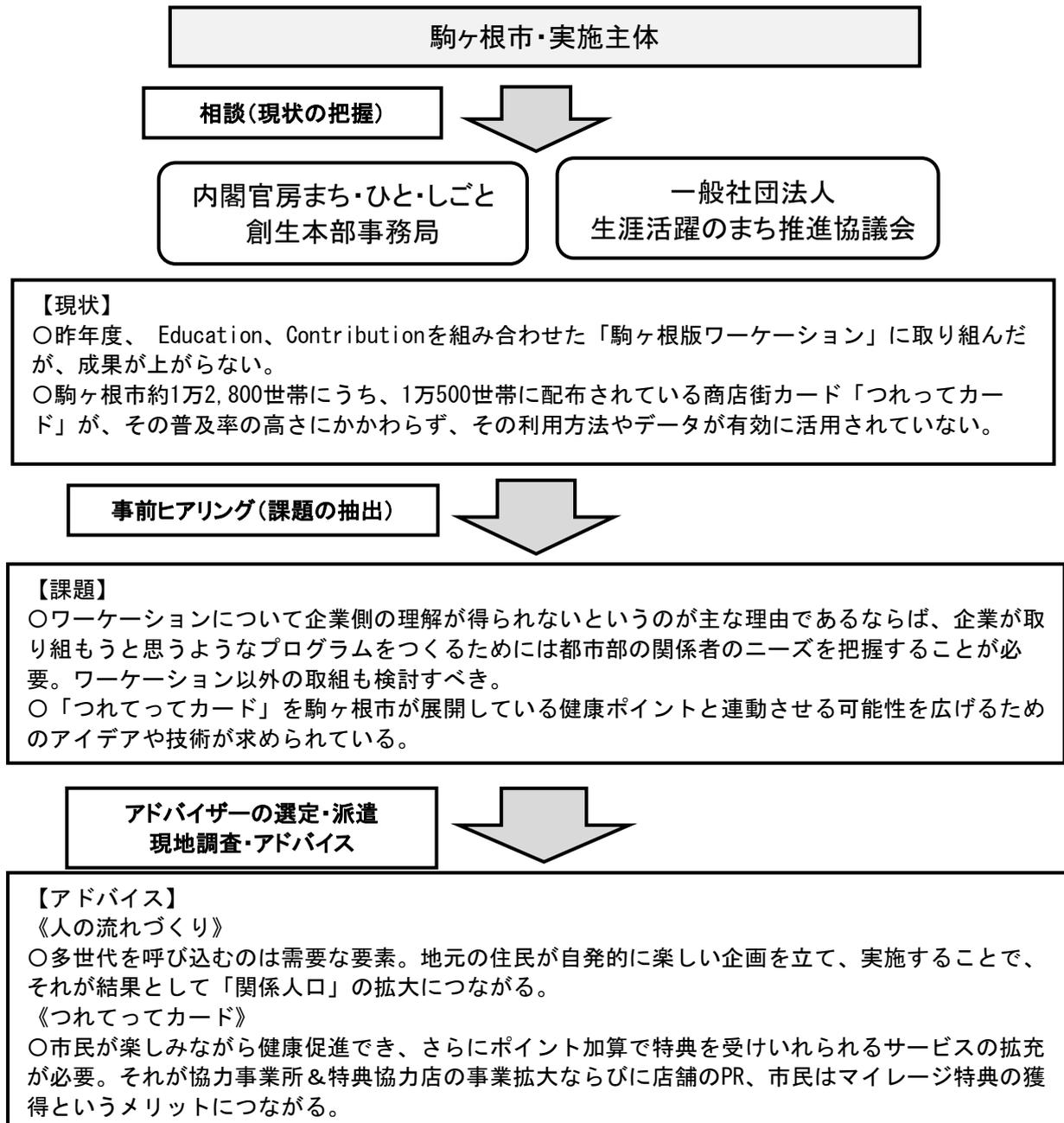
- ・地域交流拠点が、住民と住民、住民と移住(希望)者をつなぐ機能を果たしているか
- ・帯屋町交流拠点の周辺住民を対象にしたプログラムを作れないか  
(健康だけでなく、商店街をテーマにしたものなども含め)  
→ 帯屋町周辺住民の「居場所」づくり
- ・健康ポイントと商店街クーポンの連携はできないか

#### 4) まとめ

- ・実施主体の当事者（高知市ならびに事業主体）が課題感を統一し、アクティブシニアの移住促進が目標であることを改めて認識した。
- ・移住促進をするためには「生涯活躍のまち」の他の機能（交流・居場所、活躍・しごと）を組み合わせることの重要性を認識した。

## 調査研究の経過

駒ヶ根市における事業の流れ



自治体・実施主体へのヒアリング調査



最終日の報告会

(1) 事前調査

駒ヶ根市構想

R2.4月1日時点

### 全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』の取組事例（長野県駒ヶ根市（こまがねし））

**◆コンセプト：『人生100年型多世代交流コミュニティの実現』**

このまちにきたい、住みたい、住み続けたいと思える人が増えるように、地域の魅力を高め、誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う地域づくりに取り組み、地域活力の確保や安心な暮らしの確保を目指す。

**<特徴>** 誰もが活躍できる地域共生社会（ごちゃまぜ）の実現  
地域特性を活かし、新たな人の流れをつくる  
リニア開通を見据え、ブランディング、街なかの整備

新たな人の流れづくり  
多世代・多文化交流の促進  
活躍の場づくり  
移住定住促進  
健康増進  
地域の魅力を高める

地域交流拠点を核に様々な機能を街なかを展開

こまがね市民活動支援センター & JOCA本部  
ウェルネス施設（※イメージ）  
大使村

・人口：31,957人（R2.4月1日時点）  
・H31.2月駒ヶ根市版総合戦略改定（生涯活躍のまち明記）  
・R1.8月駒ヶ根市版生涯活躍のまち構想策定  
・地方創生推進交付金（2019.第2回）を活用  
・地域再生推進法人：公益社団法人青年海外協力協会を指定（R1.9月）、市と協働により事業構築中。

**◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり**

**「交流・居場所」**

【主な取組内容・進捗状況】  
○交流拠点整備 ※地域再生推進法人  
ウエルネス整備、市民活動支援センター  
○外国人市民との交流促進（大使村）  
○市民団体交流促進

【今後の展開】  
○R2交流拠点整備（一部機能着手）◀JOCA▶  
○関連施設をまちなかに集中整備  
○大使村プロジェクト+仮称駒ヶ根版ダボス会議  
○JICA地域実践活動による地域交流促進

**「活躍・しごと」**

【主な取組内容・進捗状況】  
○交流拠点を活用した就労の場の創出（就労継続支援A型・B型）  
○多様な人の雇用機会の拡大  
○お互いに関わり合う場づくり

【今後の展開】  
○R2多機能型事業所ウエルネス整備着手◀JOCA▶  
○働く人の環境に合わせた雇用の検討、ニーズ調査  
○若者の活躍の場づくり+ウミガメプロジェクト  
○学びの場づくり、まちゼミ  
○人材活用・人材育成

**「健康づくり」**

【主な取組内容・進捗状況】  
○ウエルネス整備（R2以降）  
○こまがね健康ステーション連携  
○地域包括ケアシステム連携

【今後の展開】  
○ウエルネスとこまがね健康ステーション連携による健康増進  
○食と健康 まちなか滞在プログラム作成  
○つれてってカード、長野県看護大学連携事業の構築

**「住まい」**

【主な取組内容・進捗状況】  
○関係人口づくりと合わせたゲストハウス、お試し居住の整備  
○まちなかへの住み替え支援

【今後の展開】  
○ゲストハウス（民間）連携  
○立地適正化計画動した住み替え支援検討  
○空き家活用の検討

**コミュニティへの人の流れ**

○信州駒ヶ根暮らし推進協議会連携  
○官民連携による移住相談、マッチング  
○ワーケーション推進（関係人口拡大+コロナ対応）

・学校や企業と連携した人材プログラ  
・テレワーク環境の整備  
・まちゼミの開催  
・地域おこし協力隊活用

**その他特徴的な取組**

<地域特性を活かし、ブランディング>  
○アルプスに代表される観光資源  
○JICA駒ヶ根の所在と積み重ねられた国際交流の実績  
○こまがねダボス  
○大使村構想の推進  
○まちなか遊休資産活用  
○効果的な情報発信  
※市民もアルプスのまちを楽しむ機会の提供

### 全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』事業の洗い出し

**多世代・多文化交流の促進**

【1-1 交流拠点整備】  
① 地域交流拠点整備  
② まちなか景観（登山基地）  
③ まちなか整備（高質化）  
④ チャオウタラ設置（ボカウ友好）  
⑤ 駐車場・移動手段

【1-2 大使村構想の推進】  
① 駒ヶ根大使村プロジェクト  
② **アジア版ダボス会議（\*）**  
③ ホストファミリー育成  
④ 外国人材受入企業サポート  
⑤ 多文化共生施策の推進

**新たな人の流れ**

【3-1 ワーケーションの推進】  
① テレワーク環境の整備  
② 魅力的なプログラム構築  
③ 人材育成プログラム提供

【3-2 地域おこし協力隊】  
① 地域おこし協力隊活用  
② テラス連携によるまちゼミ  
③ 人材発掘

【3-3 若い世代の地域づくり】  
① 郷土愛の醸成  
② **ウミガメプロジェクト（\*）**  
③ 若者の活躍の場づくり（学生、若者、女性）  
④ 特命職員の配置

**活躍の場づくり**

【5-1 交流拠点の活用】※2-3  
① 子育て中の親子の居場所  
② 創業支援施設

【5-2 多様な雇用創出】  
① 多機能型事業所整備（交流拠点、ゴチャウエルネス）  
② まちなか機能のニーズ把握  
③ 農業担い手づくりプラン  
④ 自立訓練事業  
⑤ テレワークの推進（働き方）  
⑥ 起業・創業支援

【5-3 市民団体交流】  
① こまがね市民活動支援センターの運営と展開  
② 生涯活躍と生涯学習の交流  
③ JICA地域実践活用

**健康増進**

【2-1 ゴチャウエルネス】  
① 地域密着型ウエルネス  
② つれてってカード連携

【2-2 こまがね健康ステーション】  
① 健康ステーション事務局設置  
② まちなか滞在プログラムACE  
③ 健康予防の取組  
④ 地域包括ケアシステム連携

【2-3 活躍の場（居場所）づくり】  
① 高齢者の居場所  
② 地域自治振興  
③ NPO連携  
④ 看護大学連携

**移住定住促進**

【4-1 信州駒ヶ根暮らし推進協】  
① ワンストップ窓口  
② 都市圏での移住相談  
③ 体験プログラム構築

【4-2 ゲストハウス・お試し居住】  
① ゲストハウス整備（民間）  
② お試し居住の推進  
③ 民泊の推進

【4-3 住まいの整備】  
① 居住誘導区域定住促進  
② 空き家活用支援  
③ 中心市街地空き店舗活用  
④ サ高住整備検討

**地域の魅力を高める**

【6-1 こまがねテラス連携】  
① こまゼミ（まちなか塾）  
② まち歩き  
③ アルプスを楽しむ仕掛け

【6-3 情報発信】  
① まちなか多様な企画  
② コーディネーター発掘  
③ 土産品開発・販売  
④ 新たな発信の仕組み

**（課題）**  
中心市街地の再生・賑わいの創出  
多様な人材の活躍  
地域共生社会の実現  
若者の定着  
など

↓

**求められる機能**

- ・テレワーク環境  
会議室、コワーキング、カフェ
- ・地域おこし協力隊の居場所
- ・子育て中の親子の居場所
- ・ダボス会議、ウミガメ、テラス事務所
- ・若者の居場所
- ・起業、ビジネスサポート
- ・地域実践活動の場

拠点の必要性あり、誰が、どこで、運営！

**人材育成・活用**

- ・まちなかコーディネーター
- ・地域おこし協力隊
- ・起業、起業家育成
- ・外部人材
- ・学びの場
- 人の発掘！

**居住施策**  
3カ年

駒ヶ根市生涯活躍のまち構想 概要

**コンセプト: 人生10年時代型多世代交流コミュニティの実現**

このまちに来たい、住みたい、住み続けたいと思える人が増えるように、地域の魅力を高め、誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う地域づくりに取り組み、地域活力の確保や安心な暮らしの確保を目指す

**【基本方針】**

- (1) 誰もが活躍できる地域共生社会ちやまげの実現
- (2) 持続可能な地域づくりに向けて地域特性を活かした取り組みを促進した人の流れをつくる
- (3) リニア開通を見据え関係人口増に向け中心市街地の整備を進める

**多世代・多文化交流**

世代や国籍を超えて、障害を持った方、ケアが必要な方も、様々な人と人がつながりあう機会を増やすことで、地域共生の機能を高める

○交流拠点整備 ○大使村構想推進

**地域の魅力を高める**

中心市街地を核に、アルプスの映えるまちとして、市外の人はもちろん、駒ヶ根で暮らす人が地域を楽しみ、誇りを持てるまちづくりをすすめる。

○こまがねテラス ○大使村構想推進 ○まちなか塾

**活躍の場づくり**

就労、ボランティア、生涯学習といった積極的な機会に加え、関わり合いや支え合いのなかで役割や生きがいを感じられる機会を増やす

○交流拠点活用 ○多様な雇用創出 ○市民団体交流促進

**健康増進**

日々の関わり合いによる健康増進に加え、住民が自ら予防的な活動を行う機会を増やしていくとともに、ケアが必要になった場合でも地域で暮らし続けられる環境を整備する

○健康ステーション ○ウェルネス ○多世代交流 ○活躍の場(居場所)づくり

**新たな人の流れ(学びの場づくり)**

若い世代の流出に歯止めをかけるとともに、青年海外協力隊や大都市圏の企業等と連携し、将来のライフスタイルの変化に合わせた環境作りを進め、関係人口を増加させる。

○ワーケーション推進 ○地域おこし協力隊 ○まちなか塾

**移住定住促進**

移住者向け住まいの整備や立地適正化計画の推進など、時代に合った住まいの整備が進められるよう関係機関との連携を強化する。

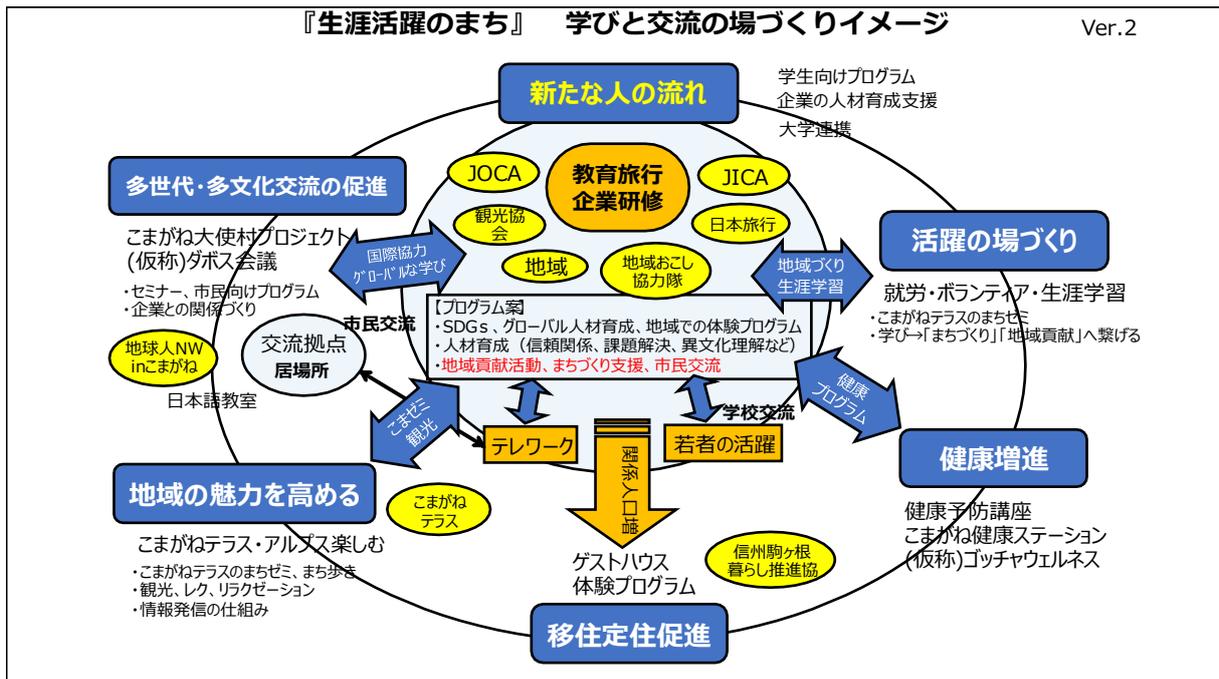
○田舎暮らし駒ヶ根推進協議会 ○ゲストハウス ○お試し居住 ○住まい整備

**(施設整備や事業展開の考え方)**

施設整備や取り組みを中心市街地に集約させることで社会資源の密度を高め、事業の推進力、成果を最大化させる。そのため、様々な施策や活動の縦割りを乗り越え複合的な事業展開を行う。

**(事業実施体制)**

事業運営主体となる地域再生推進法人として、(公社)青年海外協力協会(JOCA)を指定する。JOCAは関連する団体等との連携を図り、市内一丸となってプロジェクトが推進されていくための中核機能を担う。



## 学びと交流の場づくり

学びを軸に多様な人が関わり合う場をつくることで、駒ヶ根版生涯活躍のまちづくりが目指す「多世代・多文化交流の促進」「新たな人の流れづくり」「地域の魅力づくり」を進めていく。

### ● 多世代・多文化交流の促進

- ・駒ヶ根市内外に限らず、多様な人が関わり合う場をつくる

### ● 地域の魅力づくり

- ・駒ヶ根根市の特徴を活かしたプログラムを継続的に実施することで、地域の魅力を磨いていく。

### ● 新たな人の流れづくり

- ・駒ヶ根の若い世代が地域（人）に関わる機会を増やすことで、市外への流出を抑制する
- ・関係人口を拡大し、市内の活力向上に外部の人材を活用できるようにする。また、将来的な移住につなげる。



プログラムを核に、様々な人の関りを創出する

### 【企画上、留意すべきポイント】

#### まちなかで展開する

- ・街中にひとを集める
- ・関わり合いの拠点づくり (いつも人が居る場所が必要)

#### 駒ヶ根を活かす

- ・駒ヶ根だからできるもの
- ・ストーリーを示す

#### 関わり合う仕掛け

- ・異なる層が交じり合う (プログラム外も含め)
- ・ニアミスの活用(見せる演出)
- ・市外の人と住人の交流

#### 関わり続ける仕掛け

- ・一過性ではない関わり方
- ・生涯の交流づくり

#### 都市部のニーズ

- ・背景を踏まえたプログラム

「駒ヶ根市版生涯活躍のまち」づくりの重要なポイント

○ 日常的に  
○ 継続的に  
○ まちなかに

人と人が関わり合う場をつくる

・課題を解決することができる地域 (住民力)  
・中心市街地の活性  
・新しい人の流れ (I・Uターン、関係人口)

## いつでも どこでも つれてって つれてってカード協同組合



地域の枠を超えて

地域貢献型  
商店街カードシステム

私の街の  
電子なサイフ

14-02

## つれてってカード協同組合概要

対象地域	駒ヶ根市・飯島町・中川村 + 伊那市	
組合員数	141名 (H30/4月末現在)	
カード発行枚数	17,026枚 (総世帯数18,097戸)	
地域内小売店加入率	69% (会議所調査)	
端末機台数	180台 (端末料金3,000円/1ヶ月)	
駒ヶ根市	103店舗	
飯島町	26店舗 (平成10年7月加盟)	
中川村	12店舗 (平成12年2月加盟)	
協力機関	9ヶ所 (公共機関、市役所等)	
提携組合	い〜なちゃんカード加盟店82店	
カード利用箇所	合計 232店	



## つれてってカード & 端末の機能

平成19年12月 リプレース・スタート  
「ポイント・プリペイド・クレジット」併用の多機能カード

つれてってカード <無料発行>

- 1.ポイント機能(原則)  
お買い物108円につき1ポイント発行  
1ポイントは1円として利用可能  
(加盟店負担1ポイント発行で1.54円)
- 2.プリペイド機能  
10万円まで入金可能:組合が損失保証  
入金額の0.5%分のポイントが付加  
(10万円入金で500円分のポイント)  
信金で入金すると更に+0.5%で1%付加  
(10万円入金で1,000円分のポイント)
- 3.クレジット機能(端末機能)  
汎用クレジット取扱いが可能  
組合一括加入で手数料は一律3.3%
- 4.えがおポイント機能  
行政発行のえがおポイント収納



第4期カードシステム

# 住民基本台帳カードへつれてって機能を搭載

平成19年12月 利用開始  
「ポイント・プリペイド・住民基本台帳」

- 住民基本台帳カードとの併用
- 1.住基カード利用の特典  
50回の利用まで毎回10ポイント付加  
(合計5万円分お買い物相当のポイント)
  - 2.ポイント機能  
お買い物108円につき1ポイント発行  
1ポイントは1円として利用可能
  - 3.プリペイド機能  
10万円まで入金可能:組合が損失保証  
入金額の0.5%分のポイントが付加  
(10万円入金で500円分のポイント)  
信金で入金すると更に+0.5%で1%付加  
(10万円入金で1,000円分のポイント)
  - 4.えがおポイント機能  
行政発行のえがおポイント収納



住民基本台帳カードに  
「つれてって」の機能が統合されたカード  
マイナンバーカード移行に伴い、  
現在は新規発行中止



## 駒ヶ根市健康増進事業モデル 人生100年時代を見据えた、地域のかかりつけウェルネス



こまがね健康ステーション  
こまがね健康ステーション  
スタンプカード  
スタンプ6個で  
「えがおポイント」500Pプレゼント!  
・地域ポイントの運動



(仮称) GOTCHA!WELLNESS駒ヶ根

障がい福祉専門  
トレーニング指導員

- ・多機能型就労支援事業所(活動の場づくり)
- ・多世代交流
- ・中心市街地の活性化

協会けんぽとの連携

### (仮称) 駒ヶ根市健康ステーション for Business の展開

- 協会けんぽ加入事業所と契約
- For Business用小型端末設置
- GOTCHA!WELLNESS施設を活用した独自プログラムの開発
- 管理栄養士の配置 保健指導+地域店舗との健康メニュー開発



信州ACEプロジェクトの推進と上伊那地域の活性化に寄与



訪問・ヒアリング先候補

全般	健康・データ活用	ワーケーション、関係人口
<ul style="list-style-type: none"> <li>・駒ヶ根市 企画振興課</li> <li>・JOCA本部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駒ヶ根市 地域保健課 (健康ステーション事業ほか)</li> <li>・ゴッチャウェルネス担当 (JOCA)</li> <li>・支え合いネット (高齢者支援NPO)</li> <li>・つれてってカード事務局</li> <li>・えがおポイント担当(市役所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA青年海外協力隊訓練所</li> <li>・観光協会</li> <li>・みなこいワールドフェスタ 実行委員会(大使村関連)</li> <li>・ゲストハウス経営者</li> <li>・観光施設</li> <li>・こまがねテラス(商店会)</li> <li>・駒ヶ根市 商工振興課</li> <li>・koto(テレワークオフィス)</li> </ul>

駒ヶ根市コンセプト表

機能	(参照) ガイドライン	目標とする状態像	関係する事業・取組
1. 交流・居場所	あらゆる者がかかわりを持ち、ごちゃまぜで集える場	世代や国籍を超えて、障害を持った方、ケアが必要な方も、様々な人と人がつながりあう機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ まちなか拠点整備</li> <li>➢ 外国籍市民との交流促進 (大使村)</li> <li>➢ 市民団体交流促進</li> </ul>
2. 活躍・しごと	様々なコミュニティ活動や就業など役割をもって従事する	就労、ボランティア、生涯学習といった積極的な機会に加え、関わり合いや支え合いのなかで役割や生きがいを感じられる機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 交流拠点を活用した就労の場の創出 (就労継続支援A型・B型)</li> <li>➢ 交流拠点の活用</li> <li>➢ ウミGAMEプロジェクト</li> <li>➢ 学びの場づくり、まちゼミ</li> </ul>
3. 住まい	コミュニティとの関係性を重視した住宅環境の整備等	移住者向け住まいの整備や立地適正化計画の推進など、時代に合った住まいの整備が進められるよう関係機関との連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ゲストハウス (民間) 連携</li> <li>➢ 立地適正化計画連動した住み替え支援検討</li> <li>➢ 空き家活用の検討</li> </ul>
4. 健康	いつまでも健康で活躍	日々の関わり合いによる健康増進に加え、住民が自ら予防的な活動を行う機会を増やしていくとともに、ケアが	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ウェルネスとこまがね健康ステーション連携による健康増進</li> <li>➢ 食と健康 まちなか</li> </ul>

		必要になった場合でも地域で暮らし続けられる環境を整備する。	滞在プログラム作成 ➤ つれてってカード、長野県看護大学連携事業の構築
5. 人の流れづくり	都市部との人材循環など関係人口づくり	若い世代の流出に歯止めをかけると共に、青年海外協力隊や大都市圏の企業等と連携し、将来のライフスタイルの変化に合わせた環境作りを進め、関係人口を増加させる。	➤ 信州駒ヶ根暮らし推進協議会連携 ➤ 官民連携による移住相談、マッチング ➤ ワークーション推進 ➤ 学びと交流の場づくり

## (2) 現地調査の概要

駒ヶ根市は駒ヶ根市版「生涯活躍のまち」構想において、「人生100年時代型多世代交流コミュニティの実現」をキャッチコピーとして掲げ、このまちに来たい、住みたい、住み続けたいと思える人が増えるように、地域の魅力を高め、誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う地域づくりに取り組み、地域活力や安心な暮らしの確保を目指している。

同構想の事業主体である公益社団法人青年海外協力協会（以下、JOCA）は、令和元年度、関係人口の拡大を目指し、WorkにVacation、Education、Contributionの要素を組み合わせた「駒ヶ根版ワークーション」に取り組んだものの、成果が上がらなかった。

また、駒ヶ根市約1万2,800世帯のうち、1万500世帯に配布されている商店街カード「つれてってカード」が、その普及率の高さにかかわらず、その利用方法やデータが有効に活用されておらず、ITの技術を駆使してカードのもっている市民のニーズを把握し、商店街の再生などに資するものにしたいとの希望がある。

上記の課題を受けて、ワークーションも含めた「人の流れづくり」に対しては日本旅行の渡邊義男氏、「つれてってカード」の活用に対しては富士通の大竹氏をアドバイザーに選定。駒ヶ根市職員、JOCA職員の他、観光協会、JICA駒ヶ根訓練所、ゲストハウス運営（最近起業）者、高齢者のサポート事業従事者、商店街関係者などへのヒアリングを重ね、下記の提言を行った。

(3) アドバイス  
アドバイザーの提案資料①

生涯活躍のまちアドバイザー派遣

駒ヶ根市 商店街活性化への

学びと交流の場づくり

### こまがねテラスの取り組み

#### 背景

- ・ まちなかの活性化を目的にも 3年前に駒ヶ根市の商店街をこまがねテラスとして開始。  
現在36店舗と30名のメンバーが参加

#### 実践内容

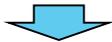
- ①楽しさを提案するためには自ら楽しむ事を実践
- ②月1回のイベント(縁日)を開催を行い、地元の方々の楽しさを共有
- ③欲求層の相談窓口となって、欲求層のマッチングやプロデュース

## 実践内容の事例

- ① 楽しさを提案するためには自ら楽しむ事を実践  
まちなか発着、住んでいる街中をツーリングバイク、自転車ツーリングを4回実施  
→ サークル的要素の創出  
★ 小さな事を繋げて、地元・観光客に見てもらおう、見に来てもらう
- ② 月1回のイベント(縁日)を開催を行い、地元の方々の楽しさを共有  
店に来て、テイクアウトで屋外での食事席を商店街に設置  
テーブル・人工芝を用意した事で、子育て層の参加を促す効果を期待
- ③ 欲求層の相談窓口となって、欲求層のマッチングやプロデュース  
→ 効果的事例はまだない。3年では

## ヒアリングから見えてきたもの

大きなイベントとして、駒ヶ根ハーフマラソン(4000人)が開催されている事から、こまがねテラスの関わり方をヒアリングすると・・・



- ・こまがねテラスに人が流れていなかった。離れた場所の発着
- ・経済効果は大きくあったが、こまがねテラスとしてはこのイベントには大きく関わっていない
- ・駒ヶ根市が企画したものだし・・・
- ・店主はこの日は店の番もあるし・・・
- ・大きなイベントよりも日頃のイベント活動をコツコツやるほうがいいのでは・・・

### 課題の抽出

観光は地元の人に関わり、観光と地元の人を繋げる事が必要と認知しているが事例のハーフマラソン4000名の参加の内、外部参加者2000名への提案を考えなかった。

外向きと地元への提案の両方を同時には出来ないと考えているのか、取り組みのスピードが遅いのか、

イベンターとなれば、最初のうちは楽しいが、こまがねテラスの方々が楽しめない

子育て層・若者(高校生)の参加は少ない

## 一定層(こまがねテラス)の考え方を変換

- ・近くにイオンが来たらというリスクを考えた事があるか。危機感の度合い
- ・今現在のイベントを行っている店主が持続できるのか。後継者の問題
  - 街の動きを止めてはいけないという意識はあるが・・・。



## 提案：子育て層・若者をどのように混ぜるか

- ・子育て層をTGTにしたバザーの開催
- ・空き家店舗を条件付きで自由に商売しても良いとしてみる  
留学生のお店、主婦の手芸・料理教室、→ 趣味を交流の場へ
- ・高校生のSDGsの教材ともなる”こまがねテラス”
- ・地元高校生のお店の開設(商業経営の実践) 全国的には商業高校や食物調理科の事例がある。  
事例 三重県相可高校食物調理科 ”まごの店” 高校生の実習の場として店を運営  
岡崎商業高校 部活動としてOKASHOP部 お菓子・飴の販売を商店街・主要駅で実施。  
県立岐阜商業 ベンチャーズ部 株式会社GIFUSHOの組織運営、企画など年間100件の案件を扱い。
- ・工業高校生が店舗の改修、リフォームを実習の場として提供
- ・赤穂高校商業科・駒ヶ根工業高校とのコラボができないだろうか？

チャレンジから関係人口は、拡大できる!!

駒ヶ根市・青年海外協力協会 御中

FUJITSU  
shaping tomorrow with you

＜生涯活躍のまちアドバイザー・トライアル事業＞  
「健康ポイント事業等の有効活用」について  
アドバイザー報告

2020年10月14日

Copyright 2020 FUJITSU LIMITED

FUJITSU

現状認識（地域課題）

2020年10月1日 事前ヒアリング  
2020年10月12日、13日 ヒアリング

# 駒ヶ根市の取組と課題

## 全世代・全目活躍型「生涯活躍のまち」の取組事例（長野県駒ヶ根市（こまがねし））

R24月1日時点

**◆コンセプト：「人生100年型多世代交流コミュニティの実現」**

このまちにきたい、住みたい、住み続けたいと思える人が増えるように、地域の魅力を高め、誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う地域づくりに取り組み、地域活力の確保や安心な暮らしの確保を目指す。

**<特徴>**

- ◆誰もが活躍できる地域共生社会（こちゃまぜ）の実現
- ◆地域特性を活かし、新たな人の流れをつくる
- ◆リニア開通を見据え、ブランディング、街なかの整備

**◆基本データ**

- 人口：31,957人（R24月1日時点）
- H31.2月駒ヶ根市総合戦略改定（生涯活躍のまち明記）
- R1.8月駒ヶ根市版生涯活躍のまち構想策定
- 地方創生推進交付金（2019.第2回）を活用
- 地域再生推進法人：公益財団法人青年海外協会の指定（R1.9月）、市と協働により事業展開中。

**◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり**

**【交流・居場所】**

**【主な取組内容・進捗状況】**

- 交流拠点整備 市域内2ヶ所 福祉法人「ウェルネスセンター」運営
- 外環駅周辺と交流促進（大使村）
- 市団体系交流促進

**【今後の展開】**

- 交流拠点整備（一部施設着手）→JOC A+
- 福祉施設をまちなかへ移転整備
- 大使村（D&E）+ 福祉施設 施設更新会議
- JICA地域貢献活動による地域交流促進

**【活躍・しごと】**

**【主な取組内容・進捗状況】**

- 交流拠点を活用した就業の場の創出（就業支援推進A型・B型）
- 多様な人の就業機会の拡大
- ふるさとに関わり合う場づくり

**【今後の展開】**

- R24年度から実施するウェルネス 整備着手→JOC A+
- 働く人のニーズに合わせた雇用の創出、コース調整
- 多様な就業の場づくり。ウェルネス D&E
- 学びの場づくり、おせせと
- 人材活用・人材育成

**【健康づくり】**

**【主な取組内容・進捗状況】**

- ウェルネス整備（R24年度）
- こまがね健康ステーション活用による健康増進
- 地域健康ケアシステム構築

**【今後の展開】**

- ウェルネスとこまがね健康ステーションによる健康増進
- 食と健康 街なか滞在プログラム作成
- つれづれカード、長野県看護大学連携事業の構築

**【住まい】**

**【主な取組内容・進捗状況】**

- 関係人口づくりに合わせたゲストハウス、おせせ、床屋の整備
- おせせへの移転整備

**【今後の展開】**

- ゲストハウス（R24年度）運用
- おせせ正化計画実施、おせせ移転整備検討
- おせせ活用促進

**◆コミュニティへの人の流れ**

- 県外からの移住し地域に貢献 就職 官民連携による移住促進、マッチング
- ワークライフバランス推進（関係人口拡大・コロナ対策）
- 学校や企業と連携した人材プログラム
- テレワーク環境の整備
- おせせの移転整備
- 地域おこし協力隊活用

**◆その他特徴的な取組**

<地域特性を活かし、ブランディング>

- アルプスに代わった観光資源
- JICA関係の存在と活用された国際交流の推進
- こまがねアルプス
- 大使村移転整備
- おせせ活用促進
- おせせ活用促進
- 市営もアルプスのまちを築く 機会の提供

出典：2020年10月1日事前ヒアリング時の駒ヶ根市・JOC A資料

# 駒ヶ根市の生涯のまち構想概要

### コンセプト：人生100年時代型多世代交流コミュニティの実現

このまちにきたい、住みたい、住み続けたいと思える人が増えるように、地域の魅力を高め、誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う地域づくりに取り組み、地域活力の確保や安心な暮らしの確保を目指す。

#### 【基本方針】

- (1) 誰もが活躍できる地域共生社会（こちゃまぜ）の実現
- (2) 持続可能な地域づくりに向け、地域特性を活かした取り組みを促進し、新たな人の流れをつくる
- (3) リニア開通を見据え、関係人口増に向け中心市街地の整備を進める

**多世代・多文化交流**

世代や国籍を超えて、関わりを持った方、ケアが必要な方も、様々な人と人がつながりあう機会を増やすことで、地域共生の環境を高める。

○交流拠点整備 ○大使村構想推進

**地域の魅力を高める**

中心市街地を核に、アルプスの映えるまちとして、市外の人をはじめ、駒ヶ根で暮らす人が地域を楽しみ、誇りを持ってまちづくりをする。

○こまがねアルプス ○大使村構想推進 ○まちなか塾

**活躍の場づくり**

就労、ボランティア、生涯学習といった積極的な機会に加え、関わり合いや支え合いのなかで役割や生きがいを感じられる機会を増やす。

○交流拠点活用 ○多様な雇用創出 ○市団体系交流促進

**健康増進**

日々の関わり合いによる健康増進に加え、住民が自ら予防的な活動を行う機会を増やしていくとともに、ケアが必要になった場合でも地域で対応し続けられる環境を整備する。

○健康ステーション ○ウェルネス ○多世代交流 ○活躍の場（居場所）づくり

**新たな人の流れ（学びの場づくり）**

若い世代の流出に歯止めをかけると共に、青年海外協力隊や大都市圏の企業等と連携し、将来のライフスタイルの変化に合わせた環境作りを進め、関係人口を増加させる。

○ワークライフバランス推進 ○地域おこし協力隊 ○まちなか塾

**移住定住促進**

移住者向け住まいの整備や立地適正計画の策定など、時代に合った住まいの整備が進められるよう関係機関との連携を強化する。

○田舎暮らし駒ヶ根推進協議会 ○ゲストハウス ○お試し居住 ○住まい整備

**【施設整備や事業展開の考え方】**

施設整備や取り組みを中心市街地に集約させることで社会資源の密度を高め、事業の推進力、成果を最大化させる。そのため、様々な施設や活動の展開を乗り越え複合的な事業展開を行う。

**【事業実施体制】**

事業運営主体となる地域再生推進法人として、（公）青年海外協力協会（JOC A）を指定する。JOC Aは関連する団体等との連携を図り、市内一丸となってプロジェクトが推進されていくための中核機能を担う。

出典：2020年10月1日事前ヒアリング時の駒ヶ根市・JOC A資料

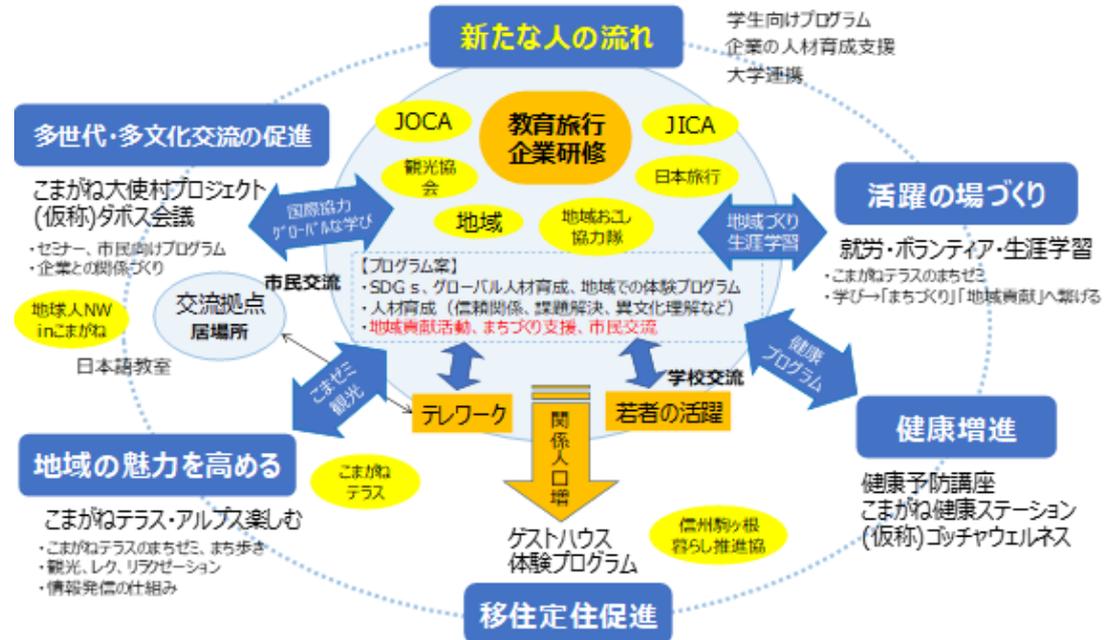
62

# 駒ヶ根市の取組全体イメージ

FUJITSU

『生涯活躍のまち』 学びと交流の場づくりイメージ

Ver.2



出典：2020年10月1日事前ヒアリング時の駒ヶ根市・JOCA資料

# つれてってカードの現状

FUJITSU



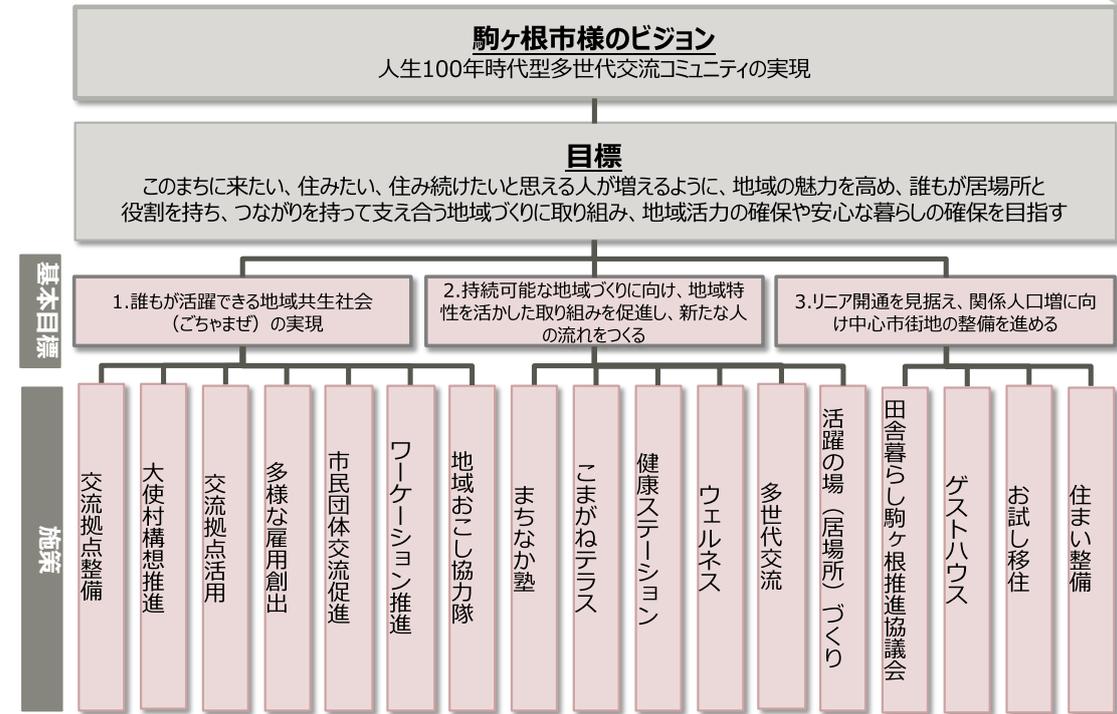
## つれてってカード協同組合概要

対象地域	駒ヶ根市・飯島町・中川村 + 伊那市
組合員数	141名 (H30/4月末現在)
カード発行枚数	17,026枚 (総世帯数18,097戸)
地域内小売店加入率	69% (会議所調査)
端末機台数	180台 (端末料金3,000円/1ヶ月)
駒ヶ根市	103店舗
飯島町	26店舗 (平成10年7月加盟)
中川村	12店舗 (平成12年2月加盟)
協力機関	9ヶ所 (公共機関、市役所等)
提携組合	い〜なちゃんカード加盟店82店
カード利用箇所	合計 232店



出典：2020年10月1日事前ヒアリング時の駒ヶ根市・JOCA資料

# 駒ヶ根市のビジョン体系図（仮説）



## 10/12関係者の課題についてのヒアリング要点

### 駒ヶ根市総務部企画振興課

- 観光客は駅からバスで山に行ってしまう。どうすればまちにいてもらえるか。

### 青年海外協力協会

- リニアの駅に近く、観光 +αで関係人口増を目指したい。
- 全世代のウエルネス、地域密着型ウエルネスを実現したい。

### 駒ヶ根市地域保健課

- 活動量計による健康づくり事業では、中高年の対象者を増やしたい。特に脳卒中の予防対策が重要であれば設備導入の充実が必要データのアップロード方法もどこかの場所に行かなくてもできる手段が必要
- 医療・介護・ケアマネージャー人員が少ない。
- 遠隔医療・介護でどの範囲までを実施するかを検討する必要がある。
- 地域包括ケアの取り組みでは、生活支援コーディネーターが通いの場に来なくても声をかけるつながりができているが、次の担い手がいない

### つれてってカード協同組合

- ポイントをためるのが目的となって、使われていない方もいる。
- カード読み取りに時間がかかる。
- カード種類が多い。ポイントの有効期限が違う
- ポイントがリアルタイムにわからない
- 若い家族世代が使っていない

# 10/13関係者の課題についてのヒアリング要点



伊藤市長様

- 各事業の点は充実しているが点と点のつなぎができていない
- つれてってカードの普及率の高さを活かした活用を期待している。

駒ヶ根市観光協会

- 焚火コミュニケーションで法人、個人の需要を取り込みたい
- まちに滞在していただくモデルを構築したい。

JICA駒ヶ根訓練所

- 地域実践場としてどういう課題があるのか。どういう協力ができるのか

移住関連事業

- 若い世代にどのようにアピールしていくか
- 短期型でなく、中長期滞在型住居の準備が必要。

地域支え合いネット

- 生活支援コーディネーターのボランティア精神でなんとか活動を続けている
- 高齢化が進み、次の担い手がいない。運営側も高齢化が進んでいる
- 移動支援がますます需要が高まるが、対応者が増えない
- 関係者の意見交換の場がほしい。悩み解決のヒントがあるかもしれない。

# 駒ヶ根市の重点領域（仮説）



## 3つの重点領域を仮説設定しました



つれてってカードの現状

つれてってカード普及率の現状

事業領域

健康・医療

データの活用

交流

10/12関係者の課題についてのヒアリング要点

- 駒ヶ根市観光協会 課題
  - 観光客は駅からバスまで行ってしまう、つれてってカードを活用する。
- 駒ヶ根市観光協会 課題
  - つれてってカードの普及率の高さを活かした活用を期待している。
- 駒ヶ根市観光協会 課題
  - 焚火コミュニケーションで法人、個人の需要を取り込みたい
  - まちに滞在していただくモデルを構築したい。
- JICA駒ヶ根訓練所 課題
  - 地域実践場としてどういう課題があるのか。どういう協力ができるのか
- 移住関連事業 課題
  - 若い世代にどのようにアピールしていくか
  - 短期型でなく、中長期滞在型住居の準備が必要。
- 地域支え合いネット 課題
  - 生活支援コーディネーターのボランティア精神でなんとか活動を続けている
  - 高齢化が進み、次の担い手がいない。運営側も高齢化が進んでいる
  - 移動支援がますます需要が高まるが、対応者が増えない
  - 関係者の意見交換の場がほしい。悩み解決のヒントがあるかもしれない。

# 「健康ポイント事業等の有効活用」 についてのアドバイス

## 健康マイレージ事業の構築

市民が楽しみながら健康促進でき、  
さらにポイント加算で特典を受けれるサービスの拡充

現状のサービス

- つれてってポイント
- キャッシュカード
- プリペイドカード
- 福祉チケット
- 子育て支援（利用予約）
- エコポイント
- ...

**「健康マイレージ事業」での新サービス**

- 健診やがん検診ポイント
- 健康教室ポイント
- 健康づくりイベント参加ポイント
- ウォーキング大会ポイント
- 健康セミナー参加ポイント
- ラジオ体操参加ポイント
- ...

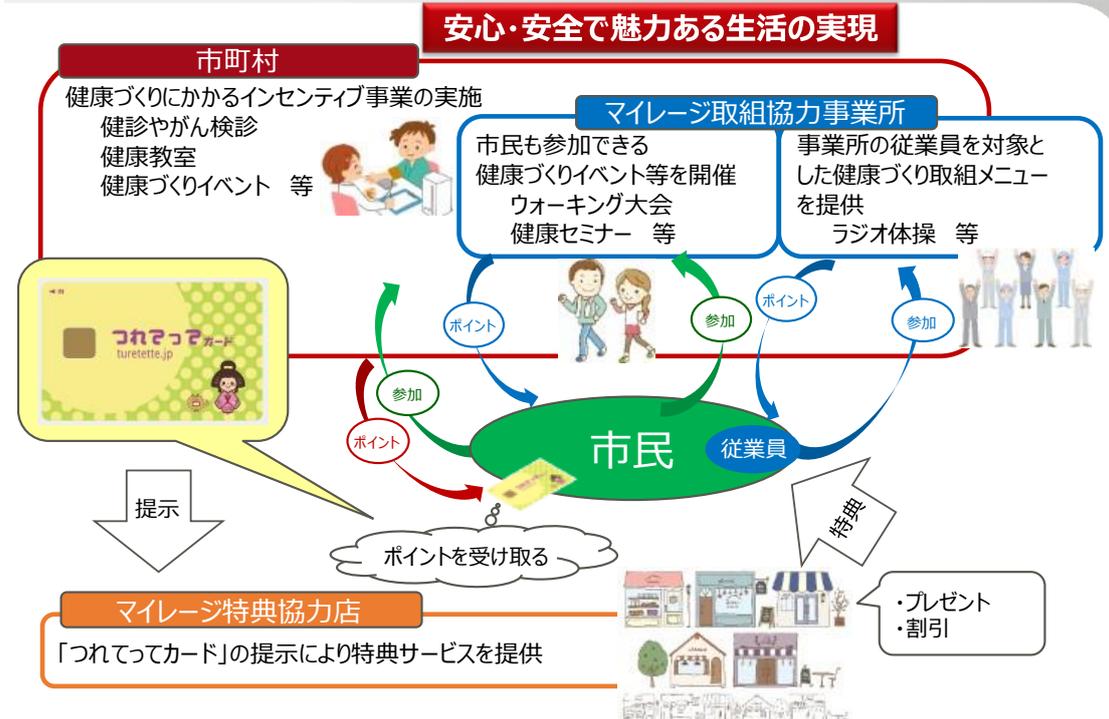
協力事業所 & 特典協力店  
事業、お店のPRにつなげる  
市民  
マイレージ特典の獲得

+

重点領域

- ①健康・医療**  
市民の健康への意識の高まりを促進し、フレイル対策へつなげる
- ②データ活用**  
データ連携基盤を整備し健康と行政、事業所を連携し、データを活用
- ③交流**  
交流の機会を創出しやりがいにつなげる

# 健康マイレージ事業の概念図



# さらなる健康マイレージ事業の拡充

## 活動の拡充

健康づくり活動だけでなく、市民の参加活動にも拡充（関わりの増加）

### アプリの活用

### ボランティア活動

- ・ 自然保護活動
- ・ 清掃活動
- ・ ガイド

### 経験・趣味を活かした教育活動

- ・ 外国語教室
- ・ 料理・手芸教室
- ・ 小中学生向け放課後学習
- ・ 退任した元教師達による教育支援
- ・ 若手、外国人労働者向け技術指導
- ・ 定年退職した手に職をもつ方達による技術指導

## 特典の拡充

特典協力店だけでなく、イベント、オンデマンド交通、生活支援サービスの利用にも展開

## 市民の利点

ポイント獲得・活用の機会増

地域・人のふれあい

場の提供によるやりがい（特に高齢者）

高齢者が生き生きと生活することで、身近な子供、孫がよい地域環境と感じる

若者の定住化・Uターン化を高める

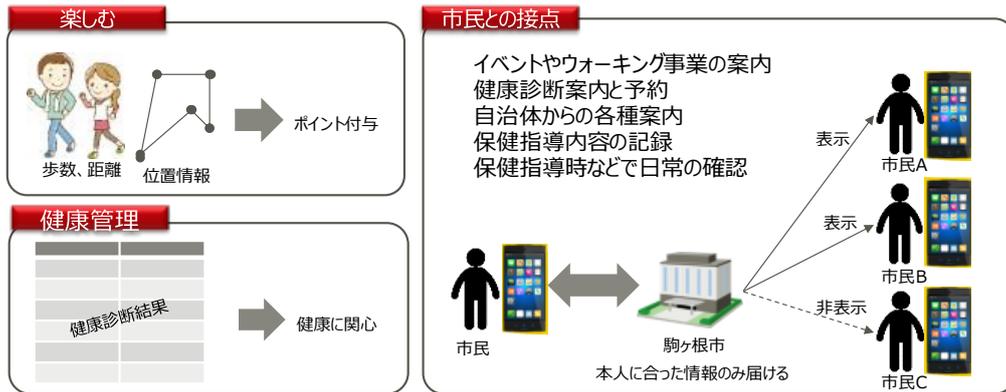
## 健康ポイントアプリを活用した市民との接点の強化 FUJITSU

### 目的

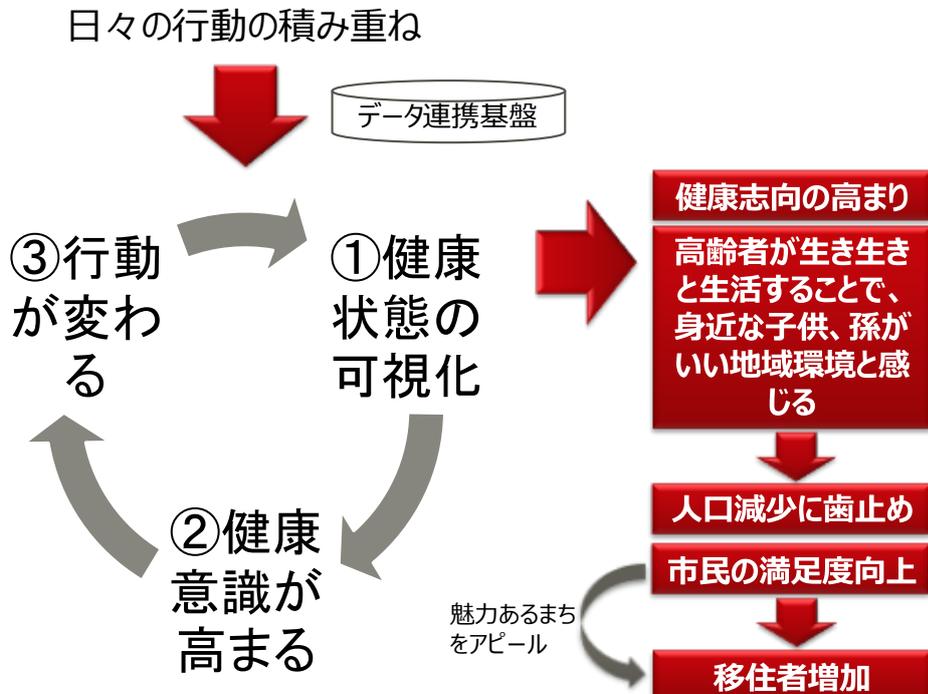
健康ポイントを活用したウォーキング事業と健康診断事業をまとめて健康管理を促す。

### 概要

ウォーキングや運動によるポイント付加などを行う健康ポイントと、健康診断予約や結果参照をまとめてアプリ化。アプリを活用し、個人のスマートフォンに本人に合った情報のみを提供する。



## データの活用と意識変革で課題の解決を FUJITSU



事業を具体化するために、下記の推進が重要です。

- ① 課題の整理（市民のための課題か）
- ② 課題内容の深堀
- ③ 課題解決に向けた具体的なビジョン・目標、課題、施策の方向性を体系的に整理
- ④ 施策の立案（市民のための施策か）
- ⑤ 施策の優先順位付け（まず何が必要とされているか）
- ⑥ 施策実行のために、事業企画の策定

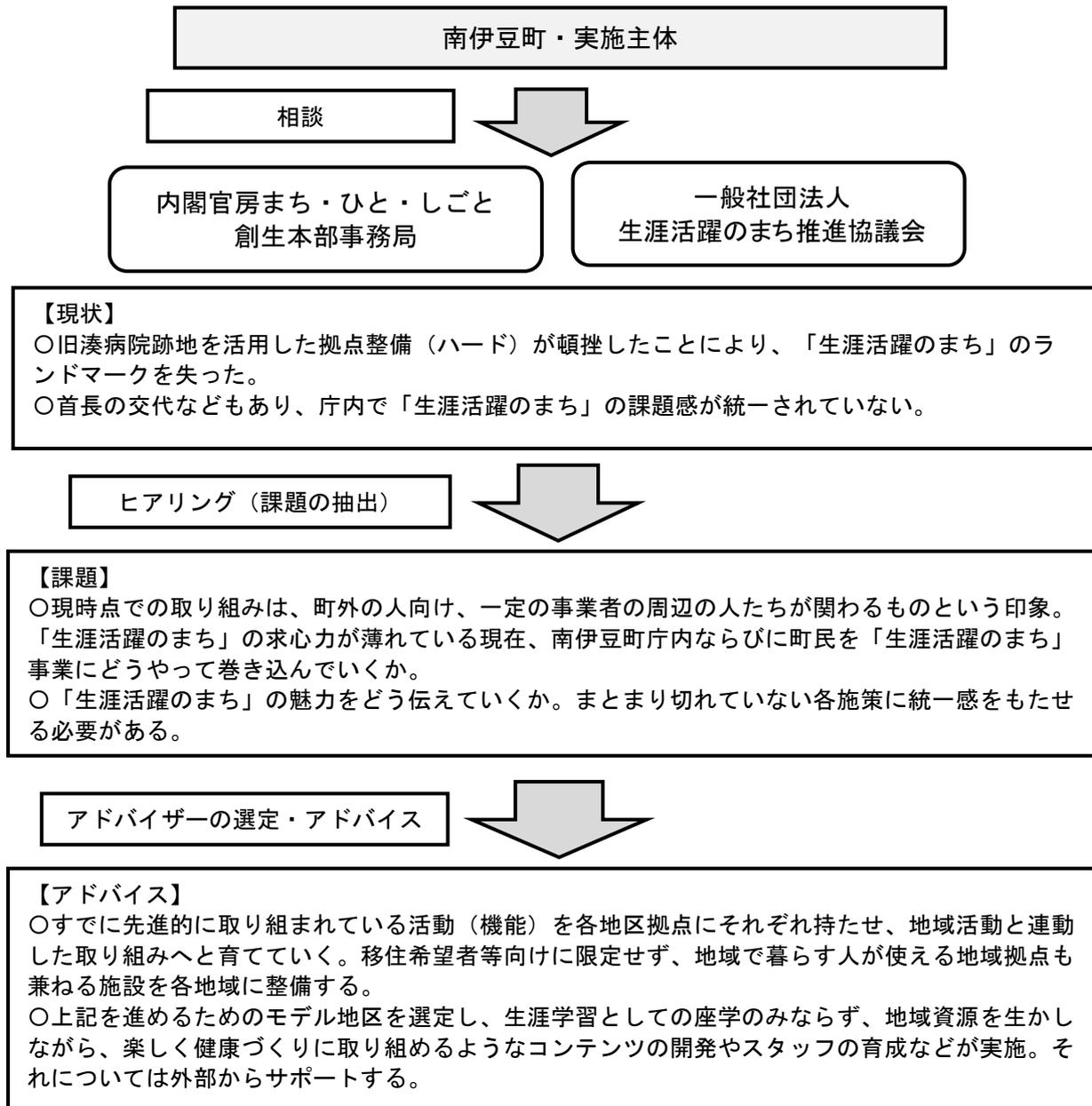
#### （４）まとめ

・関係人口の拡大ならびに商店街カードの有効活用という課題解決のためのリソース（専門知識や技術）をもっていない実施主体（駒ヶ根市、青年海外協力協会）に対して、アドバイザーが持つ専門知識やノウハウ（資金調達、不動産、医療・福祉、観光など）を活用して解決方法を提示した。

・関係人口の拡大については、企業サイドの意識改革に時間がかかるワーケーションよりも、地元の人々に楽しさを生むイベントや地元の高校を巻き込んだ教育プログラムの開発という、「可視化された課題」以外の新たな気づきにも目をむけて助言した。

## 調査研究の経過

南伊豆町における事業の流れ



(1) 事前調査

静岡県南伊豆町における全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」取組課題

R2.10月時点

**◆コンセプト：「学びあい、認めあいなから、地域全体でつくる健康、活躍、共生のまちづくり」**

地域の資源を含めた地域全体が、地域の中で活躍することのできる「学びあい、認めあいなから、地域全体でつくる健康、活躍、共生のまちづくり」を目指し、町内全域で既存資源を活用しながら事業を推進

<特徴> 地域の人と資源の活用。古くから交流のある東京都杉並区と連携した都市と地方の連携による地方創生の実現



1対1の暮らし体験  
「南伊豆暮らし図鑑」



サテライトオフィス  
事業お試し勤務



お試し移住  
「田舎暮らし体験住宅」



特別養護老人ホーム  
「エクレシア南伊豆」

**基礎データ**

- ・人口：8,051人（R2.9月時点）
- ・H28.3 南伊豆町生涯活躍のまち基本計画を策定、H29.6 地域再生計画（生涯活躍のまち形成事業関係）認定
- ・地方創生先行型交付金（先駆的事业分）・地方創生加速化交付金・地方創生推進交付金（H29.H30.R1）を活用
- ・地域再生推進法人の指定に向けて準備中

**◆誰もが居場所と役割のあるコミュニティづくり**

**「交流・居場所」**

【主な取組内容・進捗状況】

- 東京都杉並区と連携した、区民向け南伊豆体験プログラム展開
- 商店街空き店舗や新たに整備した特設でのコミュニティ事業

【今後の展開】

- 杉並区の生涯学習（まちづくり）プログラムと連携することで、都市と地方の住民の新たな交流やその先の関係構築を推進

**「活躍・しごと」**

【主な取組内容・進捗状況】

- 南伊豆暮らし図鑑  
町民が観光商品として提供する「暮らし体験」による生きがい創出、しごと創出の取組

【今後の展開】

- 南伊豆暮らし図鑑を中心とした地域内外に向けた学びのプラットフォーム構築により、個々のつながりを基本とした新たな観光施策による新たな仕事創出（暮らし体験提供者 25名）

**「健康づくり」**

【主な取組内容・進捗状況】

- 運動習慣獲得のための講座  
年代、性別を限定し、筋肉量を向上させながら、脂肪減を図るための継続的な運動講座

【今後の展開】

- 早稲田大学スポーツ科学学術院との連携で取組んだ、住民の健康意識調査結果に基づく地域別の健康づくり事業展開により住民の健康（意識）向上の推進を図る

**「住まい」**

【主な取組内容・進捗状況】

- お試し移住用「田舎暮らし体験住宅」、地域内の空き家を借上げ、移住希望者へのサブリース等による体験環境や住まい提供

【今後の展開】

- 多拠点居住者も見据えた居住施設提供のため、空き家活用を積極的に推進し、地域で活動する人員の増加を図ることで、地域の住みにくさ解消にもつなげる（体験住宅1棟・中期お試し移住物件2棟）

**取組における課題**

- 町と地域のつなぎ役として地域主体のまちづくり法人を設立を想定しているが、適切な主体、人材の発掘に至っていない。
- 当初計画にあった拠点整備（ハード）の棚上げにより、事業推進の方向性を大きく変更する必要が生じた。また、ランドマークを失ったことにより、行政組織内部や地域内外での推進体制の再構築、事業の方向性の再構築に多くの時間と労力が必要となっている。
- 長期的な計画であるがゆえに、首長の交代による政策転換への対応と関係機関との調整に大きな課題感を感じている

南伊豆町のコンセプト表

機能	(参照) ガイドライン	目標とする状態像	関係する事業・取組
1. 交流・居場所	あらゆる者がかかわりを持ち、ごちゃまぜで集える場	○町内に点在する拠点で行われる様々な活動を通して多様な主体がそれぞれ小さなコミュニティを形成する。 ○これらの情報を集約、提供するプラットフォームを構築するとともに、ネットワーク化を図ることで町全体（全域）での交流の場の提供を可能とする。	○（地域）サロン活動（各地域でボランティア活動として取組中） ○おたっしや！ポイント制度 ○高齢者移動支援モデル事業 ○子供の居場所づくり
2. 活躍・しごと	様々なコミュニティ活動や就業など役割	○地域の人の暮らし方や仕事を1対1で学び、体験することができる「南伊豆暮らし図鑑」を通して、体験者への	○南伊豆暮らし図鑑

	をもって従事する	満足提供と体験提供者の喜びや満足感を造成する。 ○特色ある学びのプラットフォームを築き、人々が学びの共同体としてのまちづくりを進め、充実感や生きがいを持ち、健幸で生涯活躍できる町民全体による大学としての南伊豆町をつくる。	○サテライトオフィス誘致事業(南伊豆るプロジェクト) ○学びのプラットフォーム構築事業 ○おたっしゃ！ポイント制度
3. 住まい	コミュニティとの関係性を重視した住宅環境の整備等	○積極的な行政の介入(支援)による空き家活用で、地域とのつながりの持てる住宅環境の整備を進めつつ、暮らしやすさを高めるためのリフォームを支援する。 ○お試し移住を推進することで、移住者と地域とのギャップ解消を図り、移住前から地域との関係性を構築する。	○空き家バンク制度 ○空き家バンクリフォーム助成事業 ○住宅リフォーム事業 ○お試し移住事業 ○移住者交流事業
4. 健康	いつまでも健康で活躍	○町民の健康に関するリテラシーを高めることで、それぞれが健康を維持するための基本的な生活習慣を身に付け、個々のリテラシーが高まることで、町全体での健康創造に対する意識を造成する。 ○健康でいられることで、地域で活躍したい要求が高まり、生きがいをもって社会活動に参加することでさらに自らの健康につながる。 ○杉並区との連携により整備した特養を中心として、要介護状態や認知症になっても困らない地域包括ケア体制を整えることで、地域社会全体の健康を築く。	○健康づくり事業 ○おたっしゃ！ポイント制度 ○地域包括ケア体制構築事業
5. 人の流れづくり	都市部との人材循環など関係人口づくり	○杉並区との自治体間連携による、特護共同整備によって培った交流・連携をまちづくりの分野でもより一層進める。 ○湯量豊富な温泉資源の活用により交流人口を拡大し、さらに、温泉を介	○杉並区交流事業 ○お試し移住事業 ○サテライトオフィス誘致事業(南伊豆るプロジェクト)

		した深い交流の環境の創造から関係人口への発展につなげる。	
--	--	------------------------------	--

## (2) 現地調査の概要

南伊豆町は当初の「生涯活躍のまち」構想の基本であった旧湊病院跡地におけるハード整備の事業が頓挫した後、首長の交代などもあり、新たな政策の方向性が明確に打ち出せていない。当初のランドマークがなくなってしまうなかでの南伊豆町庁内での議論では、「生涯活躍のまち」構想が縮小していく傾向にあり、同町庁内において生涯活躍のまちの課題感が統一できていないのが現状である。南伊豆町としては、「生涯活躍のまち」を好転させていくために、「他の地域ではこうしたことをやっている」といった事例も紹介してもらいたいという希望がある。

そうしたなかで同町は「生涯活躍のまち」の5つの機能のうち、とくに健康づくりを重視している。その中心となるのが町内34の行政区のうち、19行政区において行われている高齢者向けのサロン活動である。しかしながら、担い手の中心は主婦であり、趣味の延長という面が強く、これらの活動を事業化するとすると、現在の担い手にとってハードルが上がってしまう。そのため事業化へつなげられる可能性についてのアドバイスも求めている。

上記を受けて、事例紹介では（公社）青年海外協力協会事務局長の堀田直揮氏、健康づくりでは地域密着型のスポーツクラブを全国に展開するルネサンスの近藤大祐氏をアドバイザーに選定。堀田氏からは「南伊豆町の生涯活躍のまち事業概要」のうち「町全域で可能な地区から多極的に並行してまちづくりを展開すること」「具現化する取組として、「健康づくり」「生きがいつくり」「仕事づくり」のためのソフト事業を展開していくこと」「町内の様々な場所や場面において、本町に関わる地域内外の人が活躍し、健康で生き生きと輝くこと」を実現するために参考になる事例として、自治会とは別に地域振興協議会を立ち上げ、町全体の向上を図る鳥取県南部町のまちづくりが紹介された。

近藤氏からは既存の建物をリノベーションし、南伊豆暮らしを知るツアー、生涯学習、移住促進、ビジネスマッチングなど現行の活動を集約することで「見える化」を図ることを提案。とくに生涯学習アクティビティとしてヨガ、ワークアウトエクササイズ、アウトフィールドフィットネス、脳トレなどを実施し、楽しさから入って行って、それが結果として健康につながるという仕組みの有効性を強調した。また、そのために必要なマンパワー、とくに健康づくりのコンテンツや指導方法、スタッフの育成などについては、同社から出張サービス、ICTによる提供が可能であるとした。

(3) アドバイス  
アドバイザーの提案資料①

南伊豆町「生涯活躍のまち」  
の支援について

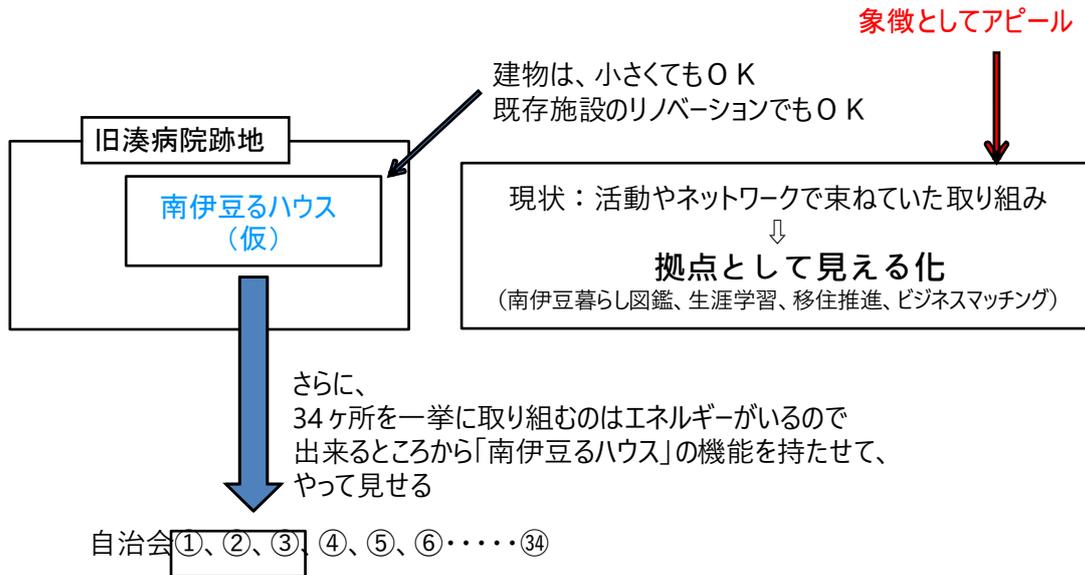
課題について

当初のサ高住を起点とした、リタイヤ層を中心とした生涯活躍のまちが施設建設中止により、求心力が薄れてしまい 施策のバラツキが出てきている。生涯活躍のまちに取り組んだ先行者として、施策は良く組まれているが、どこかしっくりこない。

課題：

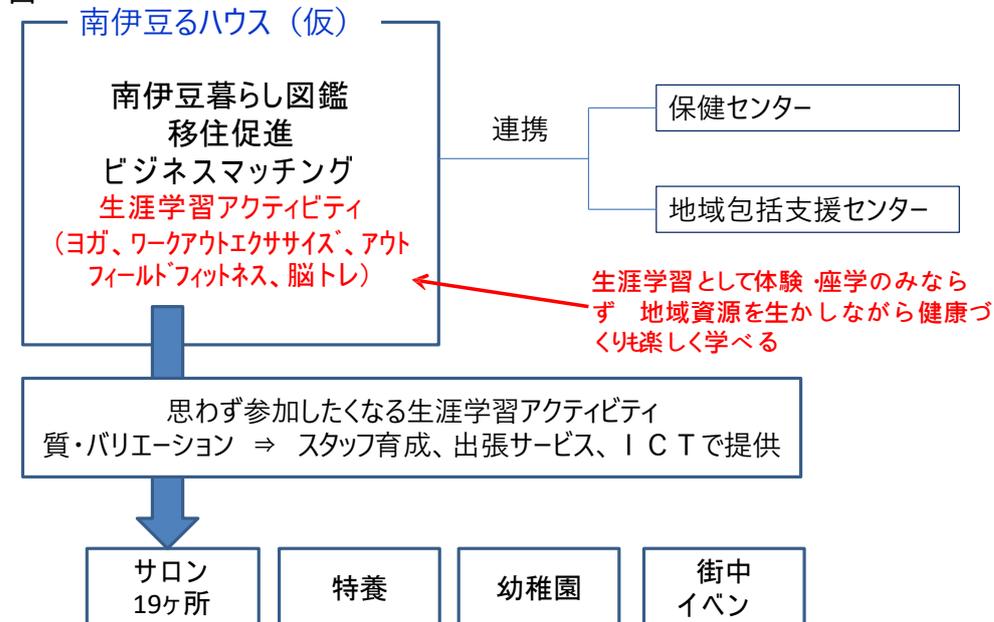
- ① 役場や町民を「生涯活躍のまち」事業へ、どのように巻き込んでいくか。どのように伝えて、アピールするか。
- ② まとまりきれっていない各施策を統一感を持たせる

## 南伊豆るプロジェクトの拠点設置



拠点を設置することで、人と情報の交流が生まれて、街づくりを行う地域の人や移住者、移住希望者など関係する人たちの一体感が増す。  
内外からも一体感があるように見える。

## 「南伊豆るフィットネス」(仮)で、多世代の生涯学習



南伊豆町は、一人ひとりの生涯学習に寄り添って、リタイヤ世代に偏らず全世代に対応。南伊豆るプロジェクトが取り組む生涯学習のコンテンツラインナップの一つとして、健康づくりアクティビティにする。

## 導入例



### 映像コンテンツとゴムバンドを使用した運動

誰でもどこでも気軽に行える映像コンテンツです。新規導入または既存サークル・自主グループにそのまま導入することができます。

### シナプソロジー®を使って脳活性化エクササイズ

特別な道具・場所を必要とせず、体ひとつでできる脳活性化エクササイズです。笑顔が絶えない楽しい教室を展開することができます。



### ご当地体操のインストラクター養成

ご当地体操で行われている運動の種類や目的を介護予防の観点から理解し、自主サークルにてサポートできるスキルを育成します。

### ストレッチと座位での本格運動指導

介護予防を目的とした運動や身体の動きを理解した上で指導できる人材を育成します。新規養成の他に、既存のサポーターのスキルアップとしても活用できます。



## おまけ : 勝手に妄想シリーズ

地域資源を生かし、オリジナリティのある生涯活躍のまちへ

関係人口を増やすために、弓ヶ浜の近隣にグランピング、キャンプ場などアウトドアアクティビティ拠点を作る。敷地内には、カフェとヘルシーな軽食がとれるカフェ食堂もあり、町民も日常使いできる。

アクティビティは、ヨガ、ダンス、ワークアウトエクササイズ、ウォーキング、ノルディックウォーク、太極拳、トレッキング、トレイルランニング、秘境トレッキング、SUP、リバーSUP、マウンテンバイクトレイルなど。

朝日を浴びながらヨガ、星空を見ながらヨガなど、町民イベントとして健康づくりを起点としたコミュニティ醸成も目指す。

健康であることが目的ではない。生活を楽しみ、豊かな人生を過ごすことが目的であり、健康であることは、その手段のひとつとして考える。

南伊豆のハウス（仮）と連携して、単なる景色を見て帰るだけの観光ではなくここで楽しいアクティビティ体験、コミュニティ体験をした町外の方は、移住検討のステップへと進む。

## “町全体が健康フィールド” 「アウトフィールド・フィットネスクラブ」

人で賑わう。  
多世代・多様化の“健康”コミュニティ

人と自然が心地よくつながる、  
自然調和のライフスタイルはじまる

最近、街や公園や自然の中で、ヨガやランニングする人を多く見かけます。それは体を動かすことの楽しさに気づいた人々が、さらなる心地よさを求めて外へと向かっているから。風を感じる、大地を蹴る、自分に向き合う…「自然との一体感」を味わうことで、忙しい日常のなかで閉じていた五感が動き出し、本来の自分を取り戻せるのかもしれない。

「アウトフィールドフィットネスクラブ」はヨガスタジオ・ボルダリング・地域の公園・地域の自然を融合し、人と人、人と自然をつなぐ、まったく新しい健康プロジェクト。仲間との自然調和のアクティブライフを通じて、いつまでも飽きずに、楽しく続けるヘルスケアサービスを展開します。

町のだれもが気軽に楽しめる  
多世代フィットネス

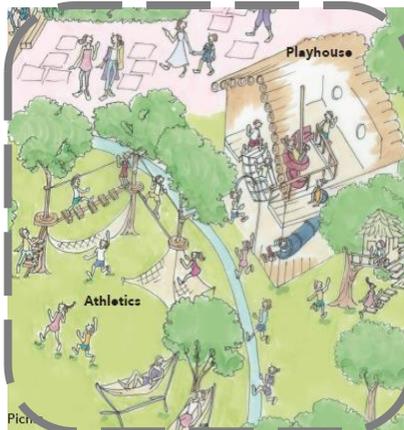


## 大人も子供も一緒にPLAY

運動神経が良くなる36の基本動作を取り入れ、発想力とチャレンジ精神も養うツールを設置。

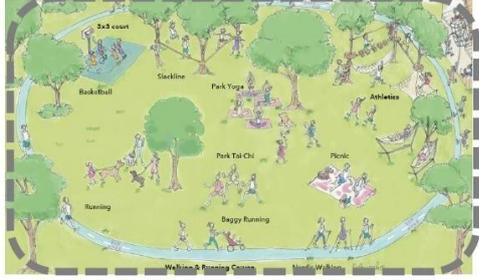


参考『運動神経がよくなる本 中村和彦(山梨大学) 著』



<b>1.スタジオ</b> 「オンライン映像配信」+「HOTスタジオ」機能 多種多様、かつ高品質なプログラム提供 体を温め代謝アップするプログラムの提供	<b>2.ボルダリング</b> 自分の体を自分で支え、頭も使って体を動かす。 運動機能向上アイテム多世代対応。	<b>3.トレーニングジム</b> 運動初心者からベテランまでの、幅広いニーズ に答えるトレーニング機器。多様化対応。	<b>4.サンドフィットネス</b> 裸足の刺激が脳を活性化、不安定な状況が バランス力、筋力アップに効果的。 多世代対応。
			

## 自然の地形・環境を活用し、カラダに優しいフィットネス

<b>パークヨガ・タイチ</b> 風や自然の音・光を感じながら、 心を解き放つ。瞑想や呼吸法を取り 入れた カラダの自然治癒力を高 めるプログラム	<b>ノルディックウォーク</b> 全身の90%以上の筋肉を使い、通常 歩行より40%消費カロリーUP。膝 にかかる負担も少なく、上半身も 使用する効率の良いウォーキング。		
			
<b>パークランニング</b> 誰でも手軽にできるランニングを、 芝生や土のフィールドでより、安 全で効果的に実施。	<b>パークトレッキング・トレイルラン</b> パーク内の不整地を使い、バランス 感覚を養いながらの有酸素運動。	<b>スラックライン</b> 遊び感覚でバランストレーニング。 ノルディックウォークを使えば 高齢者も参加可能。	<b>ヘルシーカフェ</b>  
			

				
プログラム名	時間	強度	対象/内容	
トレッキング	Half day~1 day	★~★★	近隣の里山を活用し、自然豊かなトレイルをゆっくりと楽しみながら歩くプログラム&ツアー。草木の中で心と身体を研ぎ澄まし、大地とつながる幹や葉の力を感じましょう。まずは超低山(標高500m程度)からスタート。入門クラス。	
トレイルランニング	Half day~1 day	★★~★★★★	室内のランニングマシン、ロードではなく、近隣の美しいトレイル(林道)を自分に合ったペースで走ります。非日常の体験、自己の再発見、新しい出会いを…周辺の公園、緑地や里山をゆっくりと走ります。登りはウォーキング。	
森林セルフケアウォーキング	90分~180分	★~★★	森林セルフケアウォーキングとは、森林浴をはじめ、森林環境を利用して五感を使い、心身リラクゼーションが目的のクラスです。★ 始めての方、体力に自信のない方もご参加可能です。藻琴山や和琴半島の森で行います。	
山ヨガ&トレッキング	Half day	★~★★	ライトトレッキングと山ヨガのコンビネーションツアー。森林と野鳥の鳴き声の下で行うヨガも格別!初心者も安心してご参加できます。藻琴山の山頂やハイランド小清水725で行います。	
星空ヨガ	75分	★~★★	月や星を見ながら、ゆったりと身体を動かし、地球さらには宇宙と一体化する感覚を味わいましょう。ゆったりと自分と向き合う星空でのヨガは、きっと新しい自分を発見できる時間になるはずですハイランド小清水725で行います。	
				
SUP	Half day	★★~★★★★	美しい海面をクルージング。モーターに頼らず、自身の力だけで前に進みます。パドルリングが上達すれば、サーフィンも可能です。脂肪燃焼やコアトレーニング、身体の引き締めにも最適です。夏のオホーツク海や屈斜路湖の和琴半島で実施します。	
SUP ヨガ	Half day	★★~★★★★	海上でSUPに乗りヨガやエクササイズをするSUP YOGA。海や湖と自然のパワー溢れる水上がフィールド。不安定な水上でヨガをするので陸では意識しづらい深層部の筋肉や体幹が鍛えられ、バランス力を養います。波に浮かぶだけでも気持ち良く、海からの新鮮な空気を全身に取込むことにより高いリラクゼーション効果があります。夏のオホーツク海や屈斜路湖の和琴半島で実施します。で実施します。	
RIVER SUP	Half day	★★~★★★★	初心者の方でも安心して楽しめるリバーサップの半日コース。簡単な講習後にトリップスタートします。ラフティングに比べたらバランスは崩し易いスポーツですが、いきなり激流や波のある場所にご案内することはありません。流れの少ない止別川コースで実施します。	

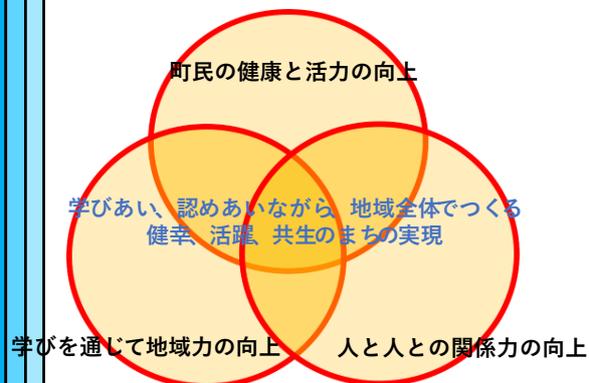
生涯活躍のまちアドバイザー派遣

## 南伊豆 生涯活躍のまちモデル再構築の検討

### 問題意識

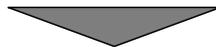
- 生涯活躍のまちの取り組みを柱にしてすべての事業を集約する方向だが、全体の事業をどういった形で統一性をもたせ、どういう方向に向かっていくと良いか。
- これまでの5年間でできたこと、できなかったことを洗い直し、新たな計画をスタートさせていきたい。
- 事業の推進を図っていくために、組織内、議会、住民、それぞれに、どう発信／説明するべきか
- 「他の地域ではこうしたことをやっている」「〇〇をもって成果としている」といった事例の紹介をもとに、それを新たなランドマークとして付け替えることができるかを検討

## 南伊豆町の生涯活躍のまち事業



## ヒアリングを終えての感想

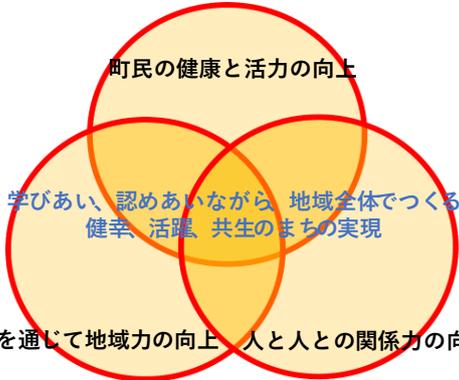
- 個々の取り組みは、人と人との関係づくりを大切に、地域資源とキャパシティに配慮され、よく練られたプロジェクトが実施されている
- それぞれのプロジェクトは生涯活躍のまちづくり推進のモデル的とも言える取り組み
- 移住してくる人が地域から孤立せず移り住んだ人もそこに暮らしている人も関わり合いながら暮らしていくことができる地域づくりが生涯活躍のまちが目指す地域像でもあるが、南伊豆にはそうした下地が既にある
- 移住者/関係人口拡大に向けた取り組みとしては更に付け加えて助言するようなことはない印象
- 他方、現時点での取り組みは町外の人向け 一定の事業者の周辺の人たちが関わるものという感じを受けた



新しい展開として浸透していくため、「そこに暮らす人」への取り組みを強化してみても

# 南伊豆町の生涯活躍のまち事業

## 事業概要



これまで、地域の誰もが生きがいを持って活躍することを可能とする生涯学習のプラットフォームを立ち上げるとともに、全町民を対象とした健康に関する意識調査結果に基づく町民の健康づくりを中心とした事業を展開するとともに、南伊豆町における生涯活躍のまちづくりの進め方等について検討を進めてきた。

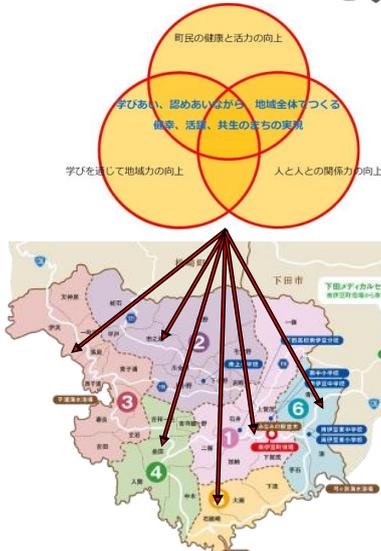
今後は、これまでの考え方の基本となっていた、まず湊区の病院跡地を整備し湊区のまちづくりを始め、そこから町全域に展開していくという考え方を見直し、町全域で可能な地区から多極的に並行してまちづくりを展開することとする。そうした考えのもと、「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸<sup>3)</sup>、活躍、共生のまちづくり」の観点での事業推進を図ることとし、この考え方を支え具現化する取組として、「健康づくり」、「生きがいづくり」、「仕事づくり」のためのソフト事業を展開していくこととする。それにより、町内の様々な場所や場面において、本町に関わる地域内外の人が活躍し、健康で生き生きと輝くことができる状態を作り上げる。

↑ 上記を強化

また、これまでの取り組みの成果として、南伊豆町での暮らしを目指し、移住を検討する人が増加する傾向にあることから、それらの人のために、町内の未活用資源（空き家など）の発掘を進め、活用を図ることとし、町民や南伊豆町に集う人々が学び、働き、交流するための場の創造についても検討を進め、本町に関わる「ひと」のみならず「もの」も含めた地域全体が、輝きを持ち活躍することのできる状態を目指すこととする。

# 各種取り組みを地域別に凝縮

## モデル地区を皮切りに地域展開を図る



すでに先進的に取り組まれている活動（機能）を各地区拠点にそれぞれ持たせ、地域活動と連動した取り組みへと育てていく。

（モデルイメージ）

鳥取県南部町 地域振興協議会

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 地域づくりの経過(その1)

- \* 南部町の誕生 平成16年10月1日  
会見町と西伯町の2町合併、新町への期待感あり  
新町の総合計画に地域自治組織づくりを謳う

地域の課題は地域で解決し、自分たちの地域は自分たちで創っていく、住民が責任と誇りを持って取り組める新しい仕組みづくりを提案

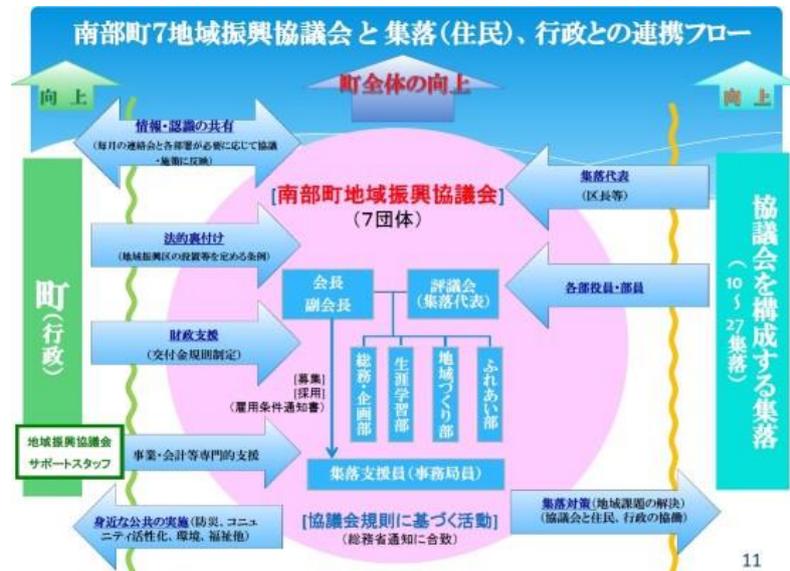
## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 行政と住民の協働の場づくり！

なぜ新しい組織が必要なのか

- \* 少子高齢化、集落の担い手不足
- \* 地域コミュニティの弱体化
- \* 98集落の規模差があり、同一施策で過不足の発生
- \* 国と地方の関係の変化、地方分権の推進、地域の自主性
- \* 身近な地域課題を、住民が力を合わせ解決できる自治体内分権する組織が必要

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

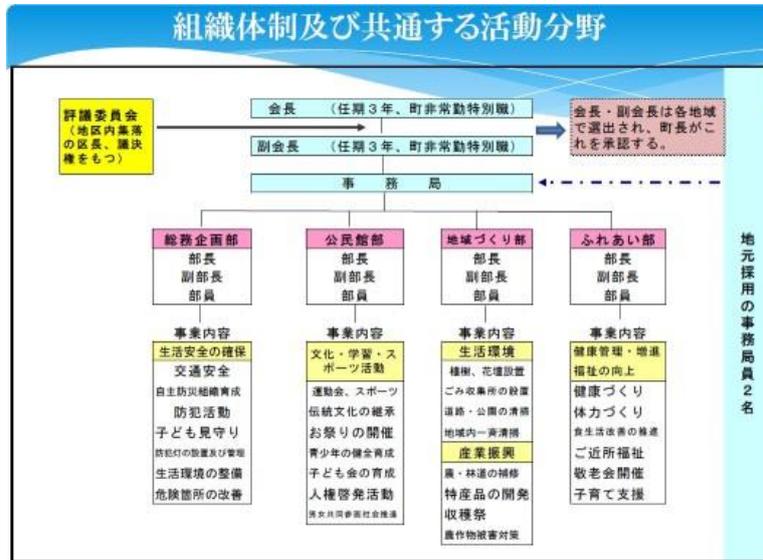


## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 職員体制について

- ＊平成19年4月～  
運営支援のため、**町からの支援職員を2名配置(課長級、一般職)**
- ＊平成19年7月1日  
地域振興協議会 **会長、副会長を町非常勤特別職として辞令交付**
- ＊平成21年4月～  
町内全集落に自主防災組織を立ち上げることを目的に、7協議会に各1名ずつ**「防災コーディネーター」を配置**
- ＊平成22年4月  
支援職員のうち一般職を引き上げ、**地元採用職員を雇用**
- ＊平成23年4月  
支援職員を完全に引き上げ、協議会と町との連携窓口として**「地域振興協議会サポートスタッフ」(非常勤職員)を導入、町企画政策課に1名配置**

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例



## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 事例紹介① 全ての協議会による 登下校時の子ども見守り活動



青パト隊などによる防犯パトロールや地域見守り活動、交通安全運動も実施

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 事例紹介⑮ 東西町地域振興協議会 “全国初”の取組みとして注目 東西町コミュニティホーム「西町の郷」の開所



「鳥取型地域生活支援システムモデル事業(地域コミュニティホーム事業)」を活用し、自宅での暮らしと同じように過ごせる居場所として平成25年6月24日に開所。全国初の取組みとして注目され、これまで平井知事を初め400名以上(約40団体)の視察の受け入れを実施。

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 事例紹介⑯ 東西町地域振興協議会 認知症SOSネットワーク訓練 認知症になっても地域で暮らしていける仕組みづくり



搜索の初動体制 = 公的機関 + 地域の見守りネットワーク

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 事例紹介⑤ 南さいはく地域振興協議会 ふれあい部による見守り活動 独居・高齢者世帯への配食サービス



お節、おはぎ、しそジュース、生姜湯など、「季節の旬」を届けます！ 18

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 事例紹介② 南さいはく地域振興協議会 地域の公共交通につなぐ 共助交通システムの運行



週2回、交通弱者の外出をサポートするため、集落から最寄りのバス停まで送迎

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 事例紹介④ 南さいはく地域振興協議会 地域の特産品を開発し都市との交流に活かす 特産化研究部会による「うど食味会」



平成26年春に  
うど羊羹「翠甘」が完成！  
4000本を売り上げた！



毎年5月に開催、毎回大盛況の「うど食味会」

17

## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例

### 事例紹介⑥ 法勝寺地区地域振興協議会 小学校との農業体験交流



西伯小学校や米子市法勝寺町と  
農業体験を通じての交流

田植え、野菜苗やイモ苗植えから  
収穫までを体験



## 鳥取県南部町 地域振興協議会の事例



事例紹介⑭ 東西町地域振興協議会  
保護者の仕事と子育ての両立を支援  
**東西町放課後児童クラブを開級**

平成24年4月、保護者の仕事と子育ての両立を支援するために開級。  
放課後や春・夏・冬休み、土日等の学校休業日に、家庭に代わる生活の場を  
確保し、遊びや学習・生活指導を行っており、地区挙げての子育て意識の醸  
成につながっています。

27

## 各種取り組みを地域別に凝縮 モデル地区を皮切りに地域展開を図る

● 移住希望者等が使 だけでなく、地域で暮らす人が使える地域拠点 兼ねる施設を各地域に整備

- ・ お試し住宅
- ・ テレワーク／ワーキング
- ・ コミュニティスペース／サロン活動等

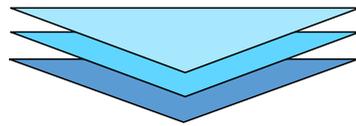
できれば 一体的な施設として整備  
この他にも地域ニーズを踏まえた機  
能を付加

● 地域拠点を核に、すでに取り組みされているプログラムを地域で開発するな地域主体プロジェクトを  
展開

- ・ 健康増進プログラム
- ・ 南伊豆くらし図鑑のメニュー開発、プログラム提供
- ・ ビジネスマッチングの課題提供  
etc…

現運営団体が支援  
↓  
将来的には自主運営も  
(連携事業として)

生涯活躍のまち ⇒ 移住者支援から住民参画へ  
住民が恩恵を感じられる  
地域が喜ぶ取り組みへと展開



**南伊豆に住むひとたちによる  
住民自治の仕組みづくり**

(南伊豆版生涯活躍のまち)

(4) まとめ

- ・ 移住に偏重したまちづくりから地域住民のための施策に重点を移し、当初のハード中心老の構想に変わる新しい方向性として「健康」と「居場所づくり」をキーワードに町内各地域のなかからモデル地区を選択し、「生涯活躍のまち」の魅力の可視化を目指すという提案を行った。
- ・ 上記を通して、これまで通りの生活を続けたいと願う住民に対し、「生涯活躍のまち」は現状の生活の維持もしくは好転のために資するものであることを理解してもらい、町庁内において課題感を統一することを提案したが、オンラインの限界があり、まずは現地を視察することの重要性を認識した。

## 2. 研修実施概要

【第1回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修】

日程：2020年9月16日（水）～18日（金）

場所：JICA中部なごや地球ひろば（名古屋市）

受講者：総数：29名（うち；自治体5名、事業者24名）

生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加）：16名

（うち；自治体4名、事業者12名）

受講者所属一覧：

1	北海道更別村（公社）青年海外協力協会・さらべつ版生涯活躍のまち推進コーディネーター	11	イオンタウン（株）	21	犬山市協働プラザ運営事業者ジョインいぬやま
2	駒ヶ根市	12	（株）日本旅行	22	NPO法人こどもサポートクラブ東海
3	駒ヶ根市	13	（株）ダイレオ	23	認定特別非営利活動法人ゆいの会
4	愛知県	14	（株）ダイレオ	24	特別非営利活動法人あゆみ
5	美浜町	15	（株）ダイレオ	25	（株）中京銀行
6	（社福）稲沢市社会福祉協議会	16	特別非営利活動法人ITC中部	26	半田信用金庫
7	富士通（株）フィールド・イノベーション本部	17	特別非営利活動法人ママ・ぷらす	27	半田信用金庫
8	富士通（株）フィールド・イノベーション本部	18	NPO法人ほっとネット・みわ	28	岡崎信用金庫
9	富士通（株）フィールド・イノベーション本部	19	（一社）和顔の輪	29	特別非営利活動法人ミライディア
10	（株）ルネサンス	20	犬山市協働プラザ運営事業者ジョインいぬやま		

【第2回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修】

日程：2020年11月11日（水）～13日（金）

場所：大博多ビル貸会議室1204（福岡市）

受講者：総数：23名（うち；自治体6名、事業者17名）

生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加）：16名

（うち；自治体3名、事業者13名）

受講者所属一覧：

1	奈良県生駒市	9	富士通（株）	17	福岡県信用組合
2	徳島県	10	富士通（株）	18	（株）佐賀銀行
3	福岡県行橋市	11	富士通（株）	19	木育おもちゃ&フリース ペース Treebranch
4	福岡県香春町	12	（株）日本旅行	20	ちーむ・レク☆さす
5	福岡県香春町	13	（株）日本旅行	21	（社福）みのりの村
6	長崎県	14	イオンタウン（株）	22	NPO法人リトルバンブー
7	富士通（株）	15	伊万里信用金庫	23	（株）コプラス
8	富士通（株）	16	大川信用金庫		

【第3回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修】

日程：2021年2月16日（火）～18日（木）

場所：オンライン

受講者：総数：61名（うち；自治体25名、事業者36名）

生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加）：49名

（うち；自治体17名、事業者32名）

受講者所属一覧：

1	弘前市	22	別府市	43	富士通株式会社
2	雫石町	23	別府市	44	日本航空株式会社
3	雫石町	24	田川市	45	東京東信用金庫
4	雫石町	25	久米島町	46	公益社団法人焼津市シルバー人材センター局長
5	雫石町	26	旭川信用金庫	47	アルプス中央信用金庫
6	岩沼市	27	北見信用金庫	48	豊川信用金庫
7	前橋市	28	宮城第一信用金庫	49	知多信用金庫
8	春日部市	29	宮城第一信用金庫	50	いちい信用金庫
9	鴨川市	30	医療法人博仁会志村大宮病院	51	オムロンソーシアルソリューションズ株式会社
10	森町	31	医療法人博仁会志村大宮病院	52	NPO法人コミュニティねつとわーく高島
11	森町	32	医療法人博仁会	53	枚方信用金庫
12	佐久市	33	医療法人博仁会志村大宮病院	54	枚方信用金庫
13	東浦町	34	高崎信用金庫	55	大阪信用金庫
14	鈴鹿市	35	館山信用金庫	56	株式会社だいしん総合研究所
15	豊中市	36	館山信用金庫	57	NPO法人健康・生きがい就労ラボ
16	市立豊中病院	37	館山信用金庫	58	尼崎信用金庫
17	宝塚市	38	千葉信用金庫	59	中国銀行
18	生駒市	39	医業経営コンサルタント 健康経営エキスパートアドバイザー	60	高松信用金庫
19	庄原市	40	株式会社ルネサンス	61	唐津信用金庫
20	宇和島市	41	株式会社ルネサンス		
21	宇和島市	42	株式会社ルネサンス		

「生涯活躍のまち」アドバイザー・リスト R3年3月現在 (50音順)

No.	氏名	ふりがな	所属	得意分野	活動可能なカバエリア	連絡先 (E-mailアドレス)
1	赤坂 和仁	あかさか かずひと	北都銀行地方創生室 ※2021.4.1以降 株式会社秋田不動産サービス	・地域連携型の構築 ・事業計画書作成 ・まちづくり提案 ・関連事業先とのマッチング ・サークル活動などのサポート	秋田県	kanbokaibo123@gmail.com
2	阿保 英樹	あぼ ひでき	社会福祉法人弘前豊徳会	福祉、イベント企画、広報、セミナー講師、終活	東北	arvore96@gmail.com
3	荒井 拓	あらい たく	千葉市役所	○行政での経験を地域の皆さんとの協働に活かすべく、プライベートで地域活動を行っています。 ※役所での主な経歴 介護保険、福祉サービス事業所指導、障害者相談支援事業、自治会所管課 ※地域での主な経歴 自治会長（事務局）、PTA連合会副会長、PTA会長、父親の会事務局長	概ね千葉県北東部から 100km圏内	taku7617@city.chiba.lg.jp
4	荒山 恭一	あらかや きょういち	旭川信用金庫	官と民間連携とのコーディネートで事業実現 ・販路拡大イベント ・まちづくり(地域資源を生かす) ・地域おこし協力隊支援	内容に応じて全国可	ask341@asahikawa-shinkin.co.jp
5	猪飼 隆介	いかい りゅうすけ	枚方信用金庫 地方創生推進部	①近居・住替え促進事業「巡りスム®」 ・地域にお住いの方の「住まい」と「暮らし」に関するお困りごとを聞き取り、 専門家につなぐことで解決する取組です。 ②金融機関と自治体との連携 ・空き家対策 ・創業支援 ・地域経済施策など ③金融機関とまちづくり会社との連携 ・PPP手法による市営住宅建替	大阪府内は関西地域。活動可能以外の地域はオンライン対応可。	tisou@hirakata-shinkin.co.jp
6	池田 一仁	いけだ かずひと	唐津信用金庫	金融、企業支援全般	佐賀県唐津市 福岡県糸島市	gyoumu-1@karashin.co.jp
7	池田 美恵子	いけだ みえこ	元信用金庫職員	市民活動、ボランティア視点でのまちづくり参加をお手伝い	愛知県知多半島 5市5町	mieryo1008@gmail.com
8	井倉 俊一郎	いのくら しゅんいちろう	一般社団法人高知サマサマCCRCセンター理事、認定NPO法人高知インドネシア看護師サポート会理事	地域おこしのイベントの企画・立案、人材の育成、インバウンド、耕作放棄地、空き家、事業承継の課題に取り組みながら得た、地域のニーズと首都圏の知見の組み合わせや、人材の育成といった経験を活かします。	全国	info@kochi-ccrc.com
9	岩崎 正勝	いぬさき まさかつ	一般社団法人三木市生涯活躍のまち推進機構	地域振興、City Identity計画、団地再生 成功例の少ない郊外型住宅団地の再生の道筋を研究、実践していきたいと考えます。	全国	midorin0425@gmail.com
10	岩村 正裕	いぬむら まさひろ	宇和島市高齢者福祉課 地域包括支援センター	健康づくり 共助のまちづくり	全国	iwamura-masahiro@city.uwajima.lg.jp
11	上前 知洋	うまえともひろ	立科町企画課	「社会福祉型テレワーク」という言葉を作り、住民と共に雇用創出に関する取組み（自営型テレワーカーの育成・就労環境整備・業務マネジメント）を進めています。社会的に孤立しやすい立場の方々の仕事を通じた社会参加を果たし、雇用と地域コミュニティの創出に成功しています。また、全国の学生と地域の事業者の経営課題をマッチングさせたアイデアソン「タテシナソン」などを手掛け、この事業は、立科町をフィールドにした若者活躍と事業者支援を両立した取組に成長しています。 人が生活するには不利な立地である中山間の自治体においても、地域にある資源（ひと・歴史・文化・自然・施設・技術など）を活かして、住民や訪れた人が主役となり、自己肯定感を高める継続した取組みを立ち上げて運営していくことで、生涯活躍のまちづくりを推進しています。	信越・首都圏エリア	uemae-tomohiro@town.tateshina.nagano.jp
12	江口 賢太	えぐち けんた	西尾信用金庫お客さま支援部	・データ等を活用した地域活性化に向けた支援 ・中小事業者支援	愛知県（一部除く）	公表不可
13	遠藤 晃	えんどう あきら	松本信用金庫営業統括部 企業成長支援課 ビジネスサポートセンター 「Matsu-ing」	・事業計画立案、策定 ・連携先コーディネート ・補助金申請サポート ・収支シミュレーション ・資金繰り支援	・松本市・塩尻市 ・大町市・安曇野市 ・木曽郡・東筑摩郡 ・北安曇郡	c-team@matsumoto-shinkin.jp
14	大竹 淳一	おおたけ しゅんいち	富士通株式会社FI本部	スーパーシティ、スマートシティ、生涯活躍のまちを推進するにあたっての課題整理と課題解決に向けた施策立案、事業企画のご支援、医療との組み合わせ事業企画のご支援	全国	ootake.jiyunich@fujitsu.com

「生涯活躍のまち」アドバイザー・リスト R3年3月現在 (50音順)

No.	氏名	ふりがな	所属	得意分野	活動可能なカバエリア	連絡先 (E-mailアドレス)
15	小野 健悦	おの けんえつ	医療法人博仁会・地域包括支援センター	「医療」「介護」「健康」「地域包括ケアの構築と地方創生」、「生涯活躍のまちを推進するにあたっての医療・介護分野の課題整理と課題解決に向けた施策立案」	関東地方、東北地方、中部地方	ono@hakujuinkai.com
16	鴨 成高	かも しげたか	高松信用金庫 業務推進部 事業支援担当	金融全般	香川県	solution@takashin.co.jp
17	高坂 一幸	こうさか かずゆき	アルプス中央信用金庫 営業統括部 企業支援室	ファイナンス 経営改善・事業再生 事業承継・M & A	長野県南信地域	k.kohsaka@alushin.co.jp
18	小島 昌樹	こじま まさき	いちい信用金庫	金融業務	愛知県 西尾張地方	no33ka73@gmail.com
19	近藤 大祐	こんどう だいすけ	株式会社ルネサンス	「健康づくりを起点とした街づくり」の発想で、地域のオリジナリティを生かした居場所、活躍、健康、住まいの企画をお手伝いします。	全国	kondo_d@s-renaissance.co.jp
20	坂下 靖子	さかした やすこ	NPO法人コミュニティわくわく高島	市民活動支援、地縁組織支援、協働コーディネート	滋賀県	webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp
21	未本 房子	すえもとふさこ	NPO法人ミライディア	市民活動支援・事業企画運営・広報	西日本	fsue@mirai-dear.org
22	染野 和雅	そめの かずまさ	株式会社スマイルアップ 代表取締役	介護、建築、不動産、ライフプランなど、将来の生活に関するお困り事全般に対応致します。	北海道	kazu.56.8.6.masa@gmail.com
23	高島 斉	たかしま ひとし	株式会社ルネサンス 地域健康推進部地域創生チーム	弊社は、全国で170ヶ所以上のスポーツクラブを運営しております。スポーツクラブで培ってきたノウハウを活かし、地域の健康づくりを軸に地域活性化につながる支援事業を行っております。	全国	takashima_h@s-renaissance.co.jp
24	竹迫 浩一	たけざこ こういち	富士通株式会社FJ本部	ヘルスケア関連 ・地域包括ケア関連 (情報連携) ・医療従事者の働き方改革 ・製造業 ・業務改善、生産性向上	九州内を中心とした西日本エリア	takezako.koichi@jp.fujitsu.com
25	田坂 妙子	たさか たえこ	株式会社コプラス コーポラティブ事業部	建築、不動産/宅地建物取引士 ニーズを引き出し、それをカタチにできる人を集め、企画や建物を創出。	全国	t-tasaka@co-plus.co.jp
26	立松 愛唯	たてまつ あい	特定非営利活動法人 ほっとネット・みわり理事長	まちづくり、中間支援、広報・企画、取材・執筆、自史活用、終活支援など	全国	npo_hotnetmiwa@yahoo.co.jp
27	千木良 泰弘	ちぎら やすひろ	富士通株式会社 フィールド・イノベーション本部	介護等福祉分野の業務改善(現場業務の課題抽出、業務の見える化、改善施策の立案等)	全国	chigira@fujitsu.com
28	堤田 翔太	つつみだ しょうた	長崎県地域振興部地域づくり推進課	離島振興、移住推進、集落対策・コミュニティ支援	長崎県	s-tsumidama@pref.nagasaki.lg.jp
29	鶴岡 親弘	つるおか ちかひろ	館山信用金庫企画部	地域経済情報 広い視野で、金融機関の目線から情報の仲介をメインに活動できればいいな、と思っています。	千葉県 (南房総地域)	tateshin@sage.ocn.ne.jp
30	出川 貴章	でがわ たかあき	館山信用金庫企画部	地域金融、中小企業診断士 館山と東京の二拠点居住を実践しています。	千葉県 (南房総地域)、東京都 (大田区)	tateshin@sage.ocn.ne.jp

「生涯活躍のまち」アドバイザー・リスト R3年3月現在 (50音順)

No.	氏名	ふりがな	所属	得意分野	活動可能な カバーエリア	連絡先 (E-mailアドレス)
31	寺門 貴	てらかど たかし	医療法人博仁会 志村大宮病院 (茨城県)	・交流、居場所づくり ・健康づくり (介護予防) ・活躍、役割づくり ・医療、介護、障害福祉など	全国 (オンラインも可能)	terakado@hakujuinkai.com
32	富田 大伸	とみた ひろのぶ	宮城第一信用金庫	地域金融機関職員として地方創生 (地域活性化・観光振興・ 交流人口の増加など) の課題について共に考えます。 ・課題や問題点のブラッシュアップ。 ・課題や問題点に対する解決策の検討。 ・アイデアの提示。 ・解決策を導き出すためのアドバイス。 ・ワークショップの支援。 ・コンサルティング、プランニング。 などのサポートを金融機関の視点からお手伝いします。	主に宮城県 (その他地 域は要相談)	tomita-h@miyashinbank.co.jp
33	成川 博文	なりかわ ひろふみ	宮城第一信用金庫	地域課題解決を念頭に、机上のプランニングではなく、事業者と伴 走しながら、相談者の潜在能力を引き出し、営業方法やプレゼン テーション方法などのプロデュースを行う。地域資源と地域産業を掛 け合わせ、地域振興や活性化に貢献します。 「地域×自治体×金融」で協働し、地域に根ざした新たなイノベ ーションを生み出していきます。	主に宮城県 (その他地 域は要相談)	narikawa-h@miyashinbank.co.jp
34	西 尚文	にし なおふみ	北海道信用金庫	1. 金融取引に関する事項 2. 経営力強化に関する事項	札幌市近郊 北海道後志地方全域	hsyj22@hokkaido-sk.co.jp
35	西山 学	にしやま まなぶ	富士通株式会社 フィールド・イノベーシ ョン本部	・スーパーシティスマートシティ分野、ヘルスケア分野(健康、医療、 介護)における課題抽出と課題整理、課題解決に向けた施策立案、 事業企画の支援 ・ICTやデータの利活用を推進した業務やプロセス改善の支援	全国	m_nishiyama@fujitsu.com
36	長谷川 真里	はせがわ まり	愛知県東浦町	金融	東海・中部地区	mari.h.883@gmail.com
37	畑山 博康	はたやま ひろやす	日本航空(株)	・航空、空港分野 ・地域航空 ・離島振興、活性化 ・観光コーディネート ・危機管理、広報対応	東京ベースだが、出張 ベースなら全国カバー可 能	hatayama.jwd5@jal.com
38	引間 淳夫	ひきま あつお	埼玉県秩父市	平成元年入庁総務部収納課配属 平成5年埼玉県出向企画財政部市町村課 平成7年秩父市庁舎企画財政部財政課 平成13年産業経済部商業振興課 平成18年地域整備部まちづくり課 平成20年市長室行政改革課 平成21年市長室秘書課 平成23年市長室地域政策課 (現在です) 上記業務に関わること	全国	seisaku@city.chichibu.lg.jp
39	古堅 宗治	ふるげん むねはる	沖縄県久米島町 企画財政課	総合計画、総合戦略、国土利用計画	久米島町	m-furugen@town.kumejima.lg.jp
40	横尾 忠晴	まきお ただはる	特定非営利活動法人ITC中部	システム構築全般	主に東海地方。要望があ れば全国対応可	kaki25@icloud.com
41	松田 剛一	まつだ こういち	北見信用金庫 地域金融支援部	経営支援、創業支援 各種補助金対策、 事業者マッチング 地域情報提供	北海道 (道東、道北)	ks-sien@okhotsk.or.jp
42	松永 崇志	まつなが たかし	ニコニコタウンきいれグループ (医療法人 参天会・社会福祉法人 喜入会) 生涯活躍のまち (喜入地域コーディネ ーター)	福祉、ブログを書く、イベント設計、地域の方へのヒアリング、子供へ の学習指導	全国	matsunaga@kiire.jp
43	丸田 満	まるた みつる	富士通株式会社FI本部	各種企業・団体の経営分析 経営の効率化に向けたアウトソーシング企画 ヘルスケア分野における業務改革のご支援・ご提案	全国 (主に九州)	maruta.mitsuru@fujitsu.com
44	溝口 耕一	みぞぐち こういち	館山信用金庫企画部	中小企業支援、非営利組織支援、補助金活用、関係人口増 加	千葉県 (南房総地域)	tateshin@sage.ocn.ne.jp
45	宮川 直彦	みやがわ なおひこ	志村フレイドグループ (医療法人博仁会・ 社会福祉法人博友会)	介護・福祉分野 介護事業の地域づくり 介護予防 高齢者の生きがいづくり・役割づくり	全国	miyagawa@hakujuinkai.com

「生涯活躍のまち」アドバイザー・リスト R3年3月現在 (50音順)

No.	氏名	ふりがな	所属	得意分野	活動可能な カバーエリア	連絡先 (E-mailアドレス)
46	森 俊輔	もり しゅんすけ	錦鹿市役所	男女共同参画, 陽がい福祉	全国	syunsuke-mori@city.suzuka.lg.jp
47	渡邊 耕	わたなべ こう	株式会社アバンアソシエイツ	一級建築士、技術士補 (建設部門) まちづくりプラン策定、産官学交流イベントの企画・立案・広報	全国	ko-watanabe@avant-a.jp
48	渡邊 義男	わたなべ よしお	(株)日本旅行	課題を教育素材に転換し、若年層への意識向上によるまちの活性化を図る	愛知県、三重県、岐阜県、静岡県	yoshio_watanabe@nta.co.jp

